

光岡長尾 I

—福岡県宗像市光岡所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第57集

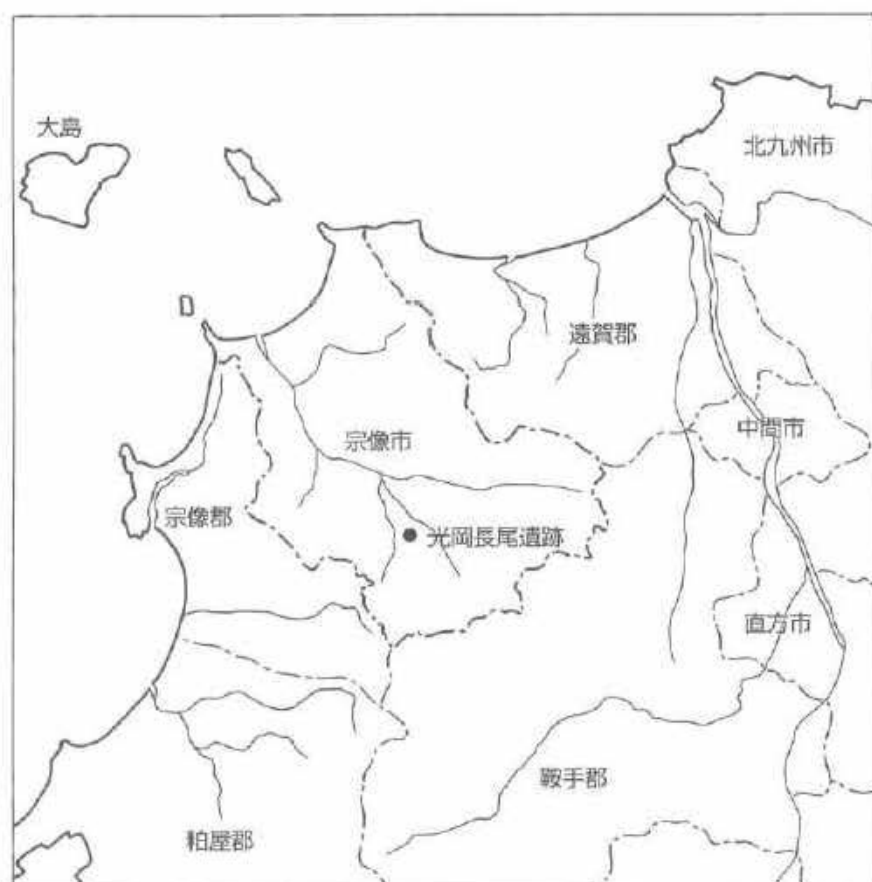
2004

宗像市教育委員会

MITSU OKA NAGA O
光岡長尾 I

—福岡県宗像市光岡所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第57集



2004

宗像市教育委員会

序 文

平成15年4月1日、旧宗像市と旧玄海町の新設合併が行われ、新しい宗像市が誕生しました。歴史的にも地理的にも深い関わりがある旧宗像市と旧玄海町との合併は、さらなる発展への体力づくりとして期待されております。

今後、合併によって57件を数えることになった国、県、市指定文化財をはじめ市域の貴重な歴史遺産の活用を図るほか、土地開発に伴う各種文化財の調査を行い、重要なものについては保存整備を図るなど、豊かな歴史環境に包まれたくらしのため、より一層尽力する所存です。

今回報告する光岡長尾遺跡第1次調査は、土笛の出土で知られる光岡長尾遺跡第2次調査B区と対峙する台地上に営まれており、弥生時代前期後半から中期初頭にかけての貯蔵穴群や、古墳時代後期の古墳群が検出されました。

本書が学術研究だけではなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、また文化財保護行政に対するご理解の一助となることを願いたしますとともに、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力をいただいた多くの方々に、心から感謝の意を表す次第であります。

平成16年3月25日

宗像市教育委員会
教 育 長 川 崎 雅 光

例 言

- 1、本書は、昭和55年度の農業基盤整備事業（は場整備）に伴い、緊急発掘調査を実施した光岡長尾遺跡第1次調査（宗像市大字光岡字長尾69番地1ほか）の調査報告書である。
- 2、発掘調査は、国、県の補助金を受けて宗像町教育委員会（当時）が事業主体となって実施した。
- 3、福岡県文化財番号は、330328である。
- 4、本報告書の遺物番号は、挿図番号に関わらず、すべて通し番号である。
- 5、本報告書に記載される遺構名は、以下のように記号化した。
SU：貯蔵穴 SO：古墳 SD：溝状遺構 SC：竪穴住居 SK：土坑
- 6、遺構図の方位は、すべて磁北である。
- 7、遺構の実測及び写真は、宮小路賀宏、井上裕弘、川述昭人、浜田信也が行った。
- 8、遺物の実測は、主に吉田恵美が行い、白木英敏、浅倉弥生が補足し、遺物写真の撮影は、白木が行った。
- 9、遺構、遺物の製図は、中原美知子、星裕子が、遺物の整理は、西村広子、田代貞子、田崎絃子、東和子、濱田広美が行った。
- 10、遺構、遺物の計測値、所見の詳細は表を参照されたい。
- 11、本書の執筆は、第1章1及び2を原俊一が、遺構・遺物の一覧表作成を吉田が、その他は白木が行った。
- 12、本書の編集は、白木が行った。
- 13、本調査において出土した遺物及び実測図、写真等の資料は、宗像市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 序 説	1
1. 調査に至る経過	1
2. 組織と構成	1
3. 位置と環境	2
4. 調査の概要	2
第2章 調査の記録	6
1. 貯蔵穴の調査	6
2. 竪穴住居の調査	8
3. 古墳の調査	9
4. その他の遺構の調査	10
第3章 まとめ	10

挿図目次

第1図 光岡長尾遺跡周辺の主要遺跡分布地図 (1/25,000)	3
第2図 光岡長尾遺跡の位置図 (1/1,500)	4
第3図 光岡長尾遺跡1次調査遺構配置図 (1/300)	5
第4図 S U 6・9・11・12遺構実測図 (1/60)	11
第5図 S U 13・14・16・18・19遺構実測図 (1/60)	12
第6図 S U 20・22・24遺構実測図 (1/60)	13
第7図 S C 1・2遺構実測図 (1/60)	14
第8図 S K 17遺構実測図及びS O 1主体部実測図 (1/40)	15
第9図 S O 2主体部実測図 (1/40)	16
第10図 S O 3主体部実測図 (1/40)	17
第11図 S U 1・4出土遺物実測図 (1/4)	18
第12図 S U 5・6出土遺物実測図 (1/4)	19
第13図 S U 6・7出土遺物実測図 (1/4)	20

第14図	S U 8・11・12・14・15出土遺物実測図 (1/4)	21
第15図	S U 15・19・20出土遺物実測図 (1/4)	22
第16図	S U 21・22出土遺物実測図 (1/4)	23
第17図	S U 23・24・S D 1・S C 2・S O 3・S K 17出土遺物実測図 (1/4)	24
第18図	各遺構出土石器・土製品実測図 (1/3)	25
第19図	表採及び各遺構出土石器・鉄器実測図 (1/3・1/2・1/1)	26

表 目 次

表 1	光岡長尾遺跡1次 貯蔵穴計測表	27
表 2	光岡長尾遺跡1次 竪穴住居計測表	28
表 3	光岡長尾遺跡1次 古墳計測表	28
表 4	光岡長尾遺跡1次 その他の遺構計測表	28
表 5	光岡長尾遺跡1次 出土土器観察表	29
表 6	光岡長尾遺跡1次 出土石器・鉄器・土製品観察表	34

図 版 目 次

図版 1	光岡長尾遺跡周辺の航空写真(昭和53年6月撮影)
図版 2	(1) 光岡長尾遺跡2次調査時の全景(北から・参考写真) (2) S U 1 (3) S U 2 (4) S U 7 (5) S U 8
図版 3	(1) S U 12 (2) S U 13 (3) S U 15 (4) S U 10 (5) S U 18 (6) S U 19 (7) S U 20 (8) S U 21
図版 4	(1) S U 21遺物出土状況 (2) S U 22 (3) S U 22遺物出土状況 (4) S D 1 (5) S C 2 (6) S O 1 (7) S O 3主体部全景 (8) S O 3
図版 5	S U 1～6出土遺物
図版 6	S U 6～8・11・12・14出土遺物
図版 7	S U 14・15・19～22出土遺物
図版 8	S U 22～24・S D 1・S C 2・S O 3・S K 17出土遺物・表採遺物

第1章 序 説

1. 調査に至る経過

昭和55年度実施の宗像町長尾第2地区ほ場整備事業に伴う工事中に、埋蔵文化財が出土したため、11月25日に工事を一時中断し、諸手続の完了後、昭和55年12月15日から翌56年1月10日にかけて約1,600㎡の緊急発掘調査を実施し、引き続き資料整理を行った。その後報告書の刊行が遅れていたが、平成15年度に宗像市教育委員会事業として刊行の運びとなった。

調査にあたり、福岡県教育庁との間で埋蔵文化財発掘調査に係る出張指導に関する手続を経て、県文化課職員の支援を得た。

文化財保護法にかかる手続き

埋蔵文化財発掘調査届 昭和56年2月20日付55宗教社発第140号
埋蔵物発見届 昭和56年1月16日付55宗教社発第33号
埋蔵文化財保管証 昭和56年1月16日付55宗教社発第35号

2. 組織と構成

1) 昭和55年度 発掘調査組織

総 括	宗像町教育委員会	教 育 長	竹 原 瑛
		社会教育課長	牧 田 俊 次
		社会教育係長	竹 村 功
		社会教育係	北 野 隆 文
		社会教育係	石 松 幸 子
発掘調査担当	福岡県教育委員会	文化課係長	宮小路賀宏
		主任技師	井 上 裕 弘
		主任技師	浜 田 信 也
		主任技師	川 述 昭 人

2) 平成15年度 報告書作成組織

総 括	宗像市教育委員会	教 育 長	川 崎 雅 光
		教 育 部 長	城 月 カ ヨ 子
		生涯学習課長	伊 豆 丸 正 敏
		文化財係長	原 俊 一
報告書作成担当		主任技師	白 木 英 敏

3. 位置と環境

本遺跡は、宗像市内陸部（旧宗像市）のほぼ中央部に位置し、朝町川支流の子下し川左岸に形成された標高約32mの台地上に立地する。この子下し川左岸の長尾から新町にかけて延びる狭長な高まりは、丘陵や台地で構成された複雑な地形を呈しながら北側へ延び、先端部の低位段丘上に古墳時代中～後期の集落跡、光岡長把遺跡が立地する。

また調査区南側は、市内を東西に貫く国道3号線で分断されるが、道路を隔てた南側は丘陵地となり、弥生時代前期後半頃の貯蔵穴、弥生時代の円形住居などが調査された集落跡、野坂松ヶ崎遺跡が立地する。

本調査地の北側に対峙する台地上では、光岡長尾遺跡2～4次調査が行われている。2次調査B区は標高約32mの台地上に立地し、弥生時代前期後半～中期初頭にかけて営まれた貯蔵穴群やV字溝を検出した。V字溝は平面正円形に近い環溝を呈し、規模は溝底径で東西42m、南北46mを測り、環溝の南北2ヶ所には地山を削り残した陸橋が設けられている。環溝内側の空間から52基の貯蔵穴が検出され、切り合い及び配置から4～5グループに分類可能である。住居跡は皆無で、貯蔵穴を集中管理したものと考えられる。

V字溝及び貯蔵穴から大量の弥生土器、石斧類、磨製石剣、石鏃、砥石などが出土しているほか、特異品として41号貯蔵穴出土の陶埴（土笛）が注目されている。陶埴は京都府の丹後半島基部から福岡県北部にかけての日本海沿岸に大半が分布しており、弥生時代前期中頃から中期初頭にかけての短い期間に出現する。遺跡を形成した集団が、土笛を介した同質の農耕祭祀を共有することが想定されている。

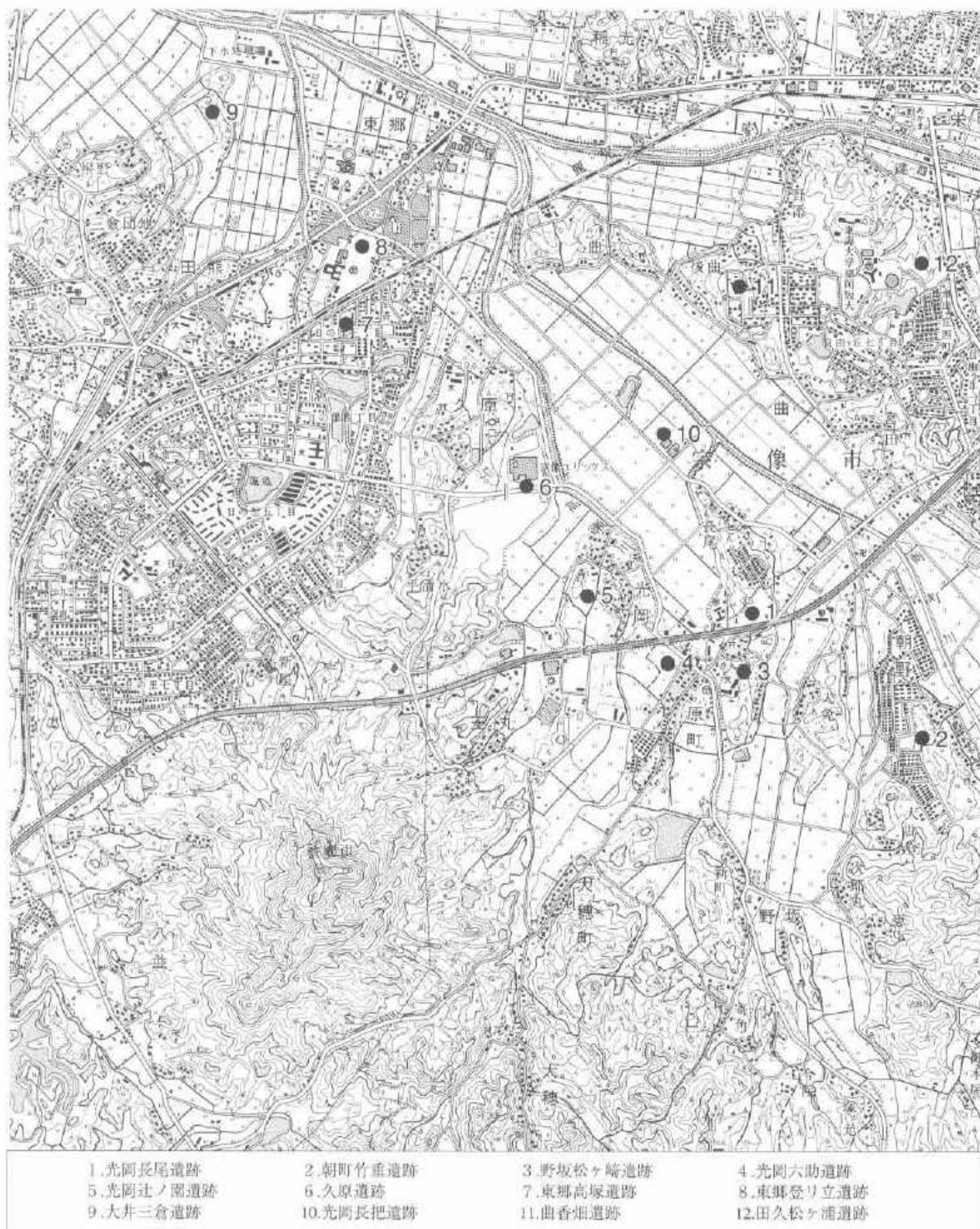
参考文献

- 磯 望1997「第2章 第2節 3 釣川南岸と上流域」『宗像市史』通史編第一巻 自然考古 宗像市史編纂委員会編
原 俊一・白木英敏・秋成雅博2000「宗像地域における弥生時代前期の集落と墓制」『日本考古学』第9号 日本考古学協会
白木英敏1998「付 光岡長把遺跡採集遺物」『光岡辻ノ園』宗像市文化財調査報告書第43集 宗像市教育委員会

4. 調査の概要

光岡長尾遺跡の総面積は約43,000㎡に推定されており、今回はその南端部、約1,600㎡を対象に調査を行った。調査区は後世の削平により平坦化され、検出された遺構の大半は上部あるいは一部を失い、南側は国道3号線によって大きな断崖となっている。

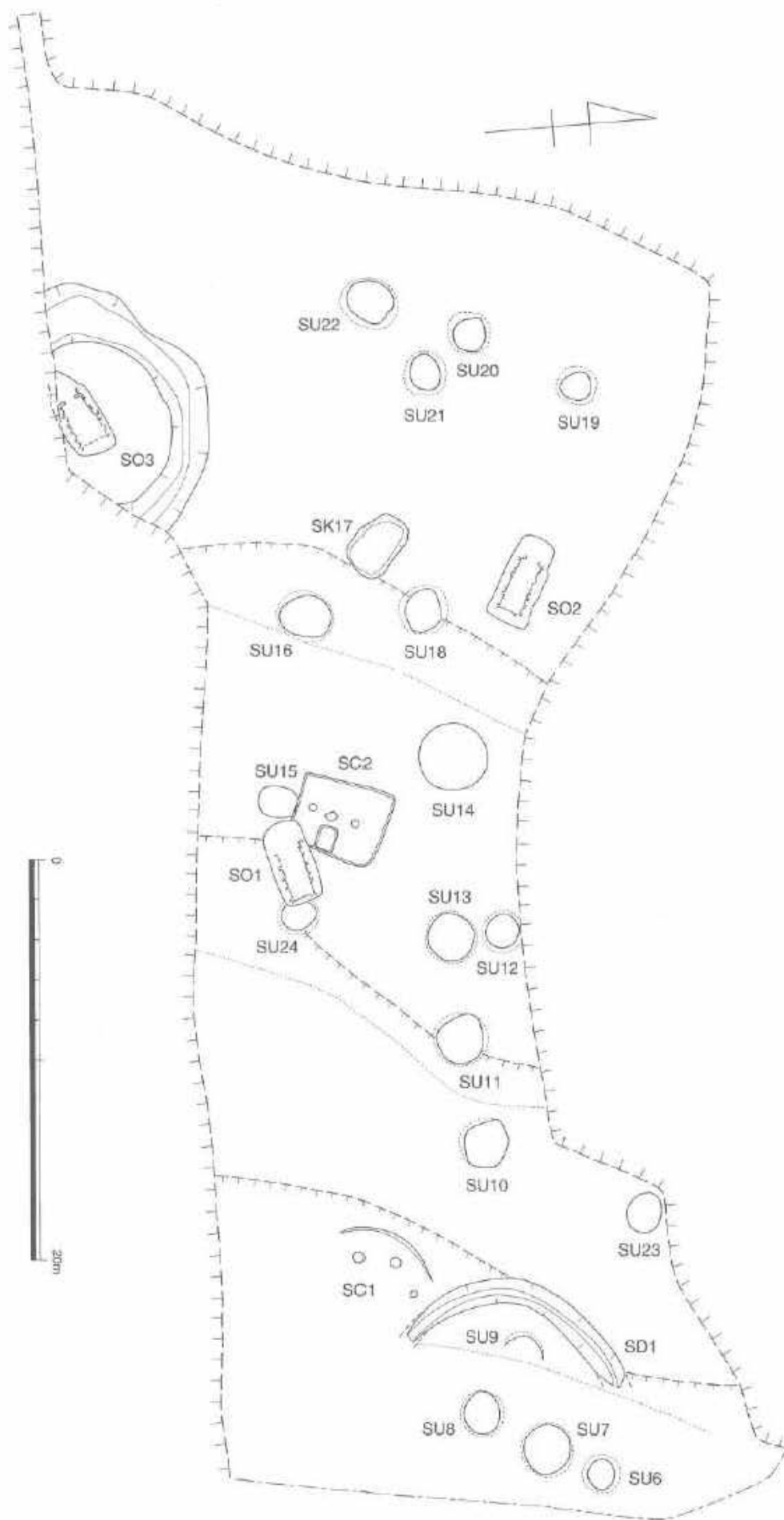
検出遺構は弥生時代前期後半～中期初頭頃の貯蔵穴23基、5世紀後半～6世紀前半代にかけて営まれた円墳3基、時期の詳細不明だが弥生時代～古墳時代初頭頃の円形及び長方形プランの竪穴住居2棟、古墳周溝の可能性ある溝状遺構1条、弥生時代前期後半頃の土坑1基である。貯蔵穴群は、対峙する台地上に営まれた光岡長尾第2次調査B区とはほぼ同時期であろう。



第1図 光岡長尾遺跡周辺の主要遺跡分布地図 (1/25,000)



第2図 光岡長尾遺跡の位置図 (1/1,500)



第3図 光岡長尾遺跡1次調査遺構配置図 (1/300)

第2章 調査の記録

1. 貯蔵穴の調査

1) S U 6 (第4図)

調査区の東端、S U 7のすぐ北側に位置する。上端の最小径1.35m、底径2.5m、深さ1mを測る。床面形状は円形に推定でき、断面は典型的なフラスコ形状を呈する。

出土遺物 (第12・13・18図、028～043・127～129) 弥生土器…028は甕。口縁部下に沈線を施す。034は小壺。口頸部と胴部との境に2条の沈線を巡らす。

2) S U 7 (第4図・図版2)

調査区の東端、S U 6・8の中間に位置する。上部は削平で失われ、床面形状は円形を呈し、底径2.64m、深さ0.82mを測る。

出土遺物 (第13・18図、044～049・130・131) 弥生土器…044は如意状口縁部片である。口唇部下端に刻目、口縁部下の2条の沈線間に刺突文を施す。049は小壺の蓋である。無軸羽状文、円弧文などで装飾される。また2穴単位の穿孔を対称位置に施す。

3) S U 8 (第4図・図版2)

調査区の東端、S U 7の南側に位置する。上部は削平で大きく失われ、床面形状は楕円形に推定できる。底径1.90m、深さ0.42mを測る。

出土遺物 (第14・18図、050～053・132) 弥生土器…052は壺の胴部片である。有軸羽状文を施す。石器…132は紡錘車の未製品であろう。

4) S U 9 (第4図)

調査区の東端、S D 1の東側に位置し、残存状況不良である。床面形状は2分の1を失うため半円形に残存する。底径1.96m、深さ0.54mを測る。出土遺物はない。

5) S U 10 (第3図)

調査区の東半部、S U 11の3mほど東側に位置し、遺構配置図で位置が知れるのみである。

6) S U 11 (第4図)

調査区のほぼ中央部、S U 13の3mほど東側に位置する。上部は削平で大きく失われ、床面形状は円形を呈し、底径2.62m、深さ0.80mを測る。

出土遺物 (第14図、054～056) 弥生土器…055・056は壺である。055は口縁部下及び頸部と胴部境に甘い段をつくる。056は肩部の沈線直下から無軸羽状文を施す。

7) S U 12 (第4図・図版3)

調査区のほぼ中央部北端、S U 13のすぐ北側に位置する。上部は削平で失われ、床面形状は円形を呈し、底径2.82m、深さ1.26mを測る。

出土遺物 (第14図、057～059) 弥生土器…057～059はすべて平底底部片である。

8) S U 13 (第5図・図版3)

調査区のほぼ中央部、S U 12のすぐ南側に位置する。上部は削平で大きく失われ、床面形状は円形を呈し、底径2.32m、深さ0.54mを測る。出土遺物はない。

9) S U 14 (第5図)

調査区のほぼ中央部、S C 2の北側に位置する。床面形状は円形を呈し、底径3.30m、深さ0.53mを測る。上部は削平で大きく失われるが、床面規模は今回調査された貯蔵穴中最大。

出土遺物 (第14図、060～064) 弥生土器…063・064はほぼ完形の小壺である。

10) S U 15 (第3図・図版3)

調査区の中央部に位置し、S C 2に切られる。遺構配置図で位置が知れるのみである。

出土遺物 (第14・15図、065～071) 弥生土器…066は如意状口縁部片である。口唇部下端に刻目、口縁部下の2条の沈線間に刺突文を施す。070は壺である。口縁部内面をやや肥厚させ、頸部直下に凸帯を巡らす。

11) S U 16 (第5図)

調査区の中央部西寄り、S U 18の4mほど南側に位置する。上部および東端は削平で大きく失われるが、床面形状は円形に推定できる。底径2.76m、深さ0.62mを測る。

12) S U 18 (第5図・図版3)

調査区の中央部やや西寄り、S U 16の北側、S O 2の南側に位置する。上端の最小径1.95m、底径3.28m、深さ2.20mを測り、床面形状は円形、断面はフラスコ形状を呈する。出土遺物はない。

13) S U 19 (第5図・図版3)

調査区の西部、S U 20の北側に位置する。底径2.98m、深さ1.56mを測る。床面形状は円形に推定でき、断面はフラスコ形状を呈する。

出土遺物 (第15図、072～075) 弥生土器…072は如意状口縁の頸口縁部片である。075は小壺の底部であろう。

14) S U 20 (第6図・図版3)

調査区の西部、S U 19の南側に位置する。床面形状は円形に推定でき、断面はフラスコ形状を呈する。底径2.86m、深さ2.30mを測る。

出土遺物 (第15・19図、076～087・133) 弥生土器…076は口縁部下に断面三角形の凸帯を巡らす。079・080・085・086は壺の口縁部片である。079・080は口縁部内面を肥厚させ口唇部上下端に刻目を施す。081～083は如意状口縁で口唇部下端に刻目を施す。081・083は口縁部下に沈線を巡らす。石器…133は蛇紋岩製の磨製石斧である。

15) S U 21 (第6図・図版3・4)

調査区の西部、S U 20の1mほど南東側に位置する。上部は削平で大きく失われ、床面形状は不整円形、断面はフラスコ形状を呈する。底径2.34m、深さ1.28mを測る。

出土遺物 (第16図、088～093) 弥生土器…088・089は甕底部、他は壺底部であろう。093は上げ底状を呈す。

16) S U 22 (第6図・図版4)

調査区の西端、S U 20・21の南西側に位置する。上部は削平で大きく失われ、床面形状は円形に推定でき、断面は台形状を呈する。底径3.10m、深さ2.26mを測る。

出土遺物(第16図、094~103) 弥生土器…094・095は如意状口縁の甕である。103は甕の蓋である。ツマミ上面に凹みをつくる。

17) S U 23 (第3図)

調査区の東半部、S U 10の北側に位置する。遺構配置図で位置が知れるのみである。

出土遺物(第17・19図、104~106・134) 弥生土器…104~106は如意状口縁の甕である。104は復元口径26.3cm、器高27.8cmを測る。石器…134は砥石である。

18) S U 24 (第6図)

調査区のはば中央部に位置する。小形でS O 1に切られ、規模は底径2.10m、深さ0.92mを測る。床面形状は円形、断面は上部を削平されるがフラスコ形状を呈するであろう。

出土遺物(第17図、107~110) 弥生土器…109は壺である。段や沈線はない。

19) S U 1~5 (図版2) 詳細不明だが出土遺物(弥生土器・石器)が知られる貯蔵穴である。

出土遺物(第11・12・18図、001~027・123~126)

S U 1 (001~007) 001は甕である。口縁部下に1条の沈線を巡らす。006は壺である。口縁部直下及び肩部に沈線を巡らし、その間に2本単位の縦方向ヘラ描きを施す。 S U 2 (008~011・123) 008は壺である。頸部下に沈線を巡らす。 S U 3 (012~016・124・125) S U 3出土とされているものも、S U 4が混入している可能性がある。 S U 3・4 (017~020・126) 020は縄文系の浅鉢である。 S U 5 (021~027) 024は壺である。頸部と胴部の境に断面三角形の貼付凸帯を巡らす。

2. 竪穴住居の調査

1) S C 1 (第7図)

調査区の東部に位置する削平著しい竪穴住居である。S D 1の南側に近接しており、本来切り合うものと考えられる。平面は約1/4残存で円形プランに推定でき、支柱穴は2本以上である。規模は直径 $2.4+a$ m、深さ0.38mを測り、直径6m程に復元できる。出土遺物はない。

2) S C 2 (第7図・図版4)

調査区のはば中央部に位置する竪穴住居である。S U 15を切り、S O 1に切られる。平面長方形プランを呈し、支柱穴は2本である。床面中央に炉跡、東壁に接して長方形の屋内土坑を有する。北辺側がやや高く残り、ベット状遺構が設けられていた可能性を考えておきたい。

出土遺物(第17図、113) 手捏ね土器である。復元口径8.0cm、器高5.1cmを測る。

3. 古墳の調査

1) S O 1

墳丘および外形（第3図）

調査区のはば中央部、標高約30.50mの丘陵上に位置する。S U 24・S C 2を切る。墳丘は後世の開墾により大きく削平され、周溝、墳形、墳丘規模等は不明である。

主体部（第8図・図版4）

主軸をN-75°-Eにとり、略西方向に開口する単室の横穴式石室である。墓壙平面は隅丸長方形、玄室床面プランは腰石の欠損部があるが、ほぼ長方形を呈するであろう。石室は破損著しく、天井石、側壁の大半、両袖石、敷石を削平及び盗掘によって失う。石室はほとんど腰石のみの残存で、左側壁の腰石は石材を横長に使う。出土遺物はない。

2) S O 2

墳丘および外形（第3図）

調査区の中央部からやや西寄り、標高約32.50mの丘陵上に位置する。墳丘は後世の開墾により大きく削平され、周溝、墳形、墳丘規模等は不明である。

主体部（第9図）

主軸をN-64°-Wにとり、略西方向に開口する単室の横穴式石室である。墓壙平面は隅丸長方形で、開口部に取り付く墓道は急傾斜に降り、平面隅丸台形のテラスをつくる。玄室床面プランは奥壁幅が若干広いがほぼ長方形を呈し、両袖である。石室は破損著しく、天井石、腰石を除く側壁の大半、敷石を削平及び盗掘によって失う。腰石は石材を横位ないし立位に据え、その上から小ぶりの塊石を小口積みする。玄門間には石材が2段に積まれているが、上段は閉塞石、下段は框石であろう。出土遺物はない。

3) S O 3

墳丘および外形（第3図・図版4）

調査区の南西端、標高約32mの丘陵上に位置する円墳である。墳丘は後世の開墾により大きく削平され、特に南側は国道3号線による切通しで、大きく崖落ちとなっている。周溝は半円形に残存するが、削平のため全周するか否かは不明。墳丘規模は約10mを測る。

主体部（第10図・図版4）

主軸をN-64°-Eにとり、略西方向に開口する単室の横穴式石室である。墓壙平面は隅丸長方形を呈し、1/2程削平されているが開口部に舌状の墓道が取り付く。玄室床面プランは腰石の欠損が多いため判然としないが、やや胴張りの長方形か。両袖で框石を有する。石室は破損著しく、削平及び盗掘によって大半を失う。残存する左側壁の腰石は石材を横長に使い、その上から小ぶりの塊石を積む。左側壁の腰石抜き跡には根石が残る。

出土遺物（第17・19図、114・115・138～143） 須恵器…114は坏身である。口唇部内面に凹みをつくる。115は短頸壺である。体部は強く張り、口唇部を丸く収める。

4. その他の遺構の調査

1) S K 17 (第8図)

調査区の中央部からやや西寄りに単独で位置する土坑である。平面不整隅丸長方形を呈し、規模は長軸3.28m、短軸2.2m、深さ0.26mを測る。

出土遺物 (第17・19図、116～122・136・137) 弥生土器…116～119は平底の甕底部である。120～122は小壺の底部であろう。

2) S D 1 (第3図・図版4)

調査区の東端部に位置する溝状遺構である。周囲にS C 9、S U 6～9があり、本来切り合うものであろう。弥生時代の遺物を出土するが平面円弧状に残存し、古墳の周溝であろう。

出土遺物 (第17・19図、111・112・135) 弥生土器…111・112は平底底部片である。

第3章 まとめ

主要遺構の時期について触れ、まとめに代えたい。

貯蔵穴群について

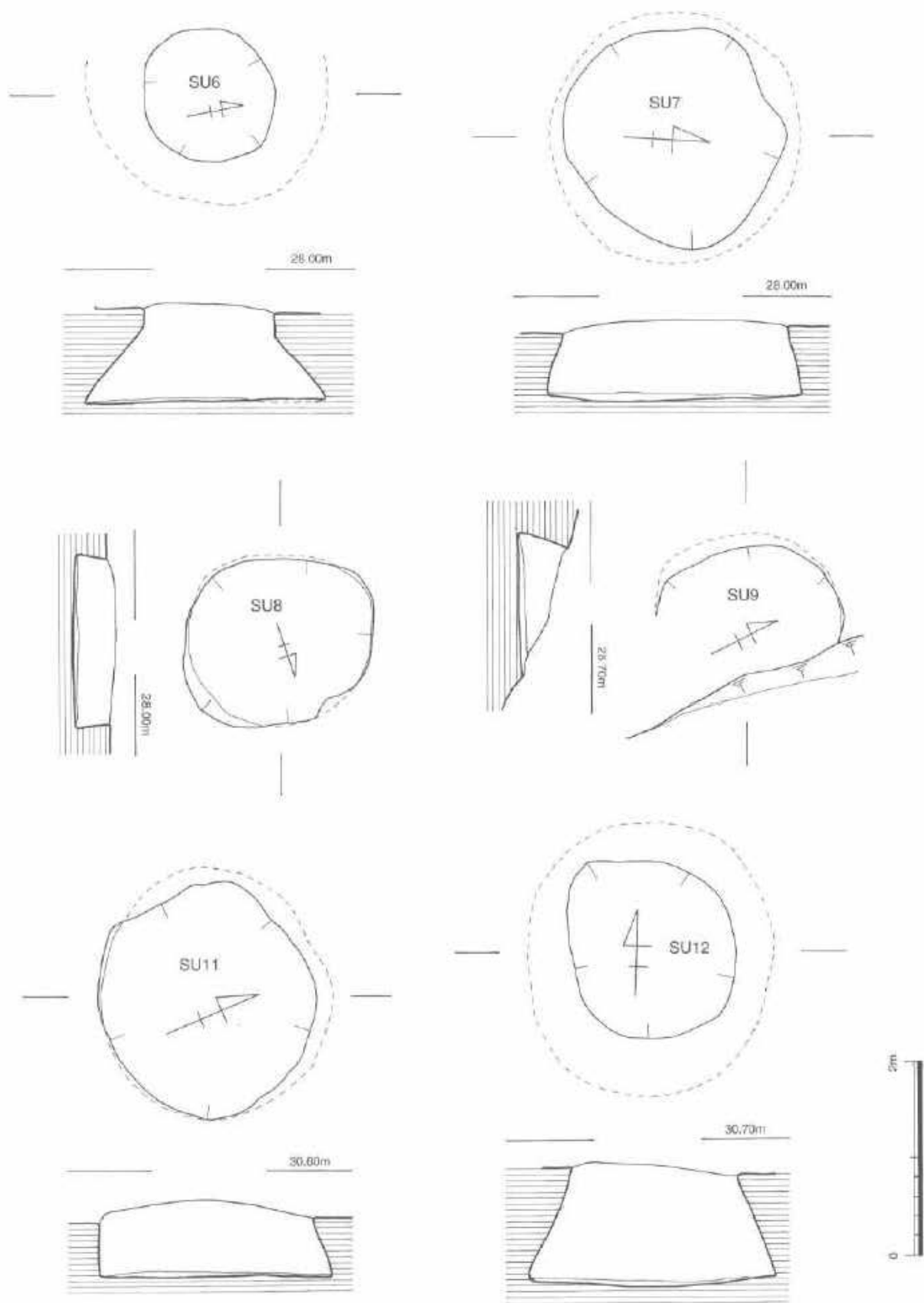
2～4基ほどの単位でいくつかのグループを成すが密度は高くなく、貯蔵穴同士の切り合いはない。板付Ⅰ式に遡る遺物も見られるが出土遺構の詳細が不明であり、大半が板付Ⅱ式の範疇に収まる。弥生時代前期後半から中期初頭の造営と考えてよく、対峙する台地上に営まれた2次調査B区環溝とはほぼ同時期である。

古墳群について

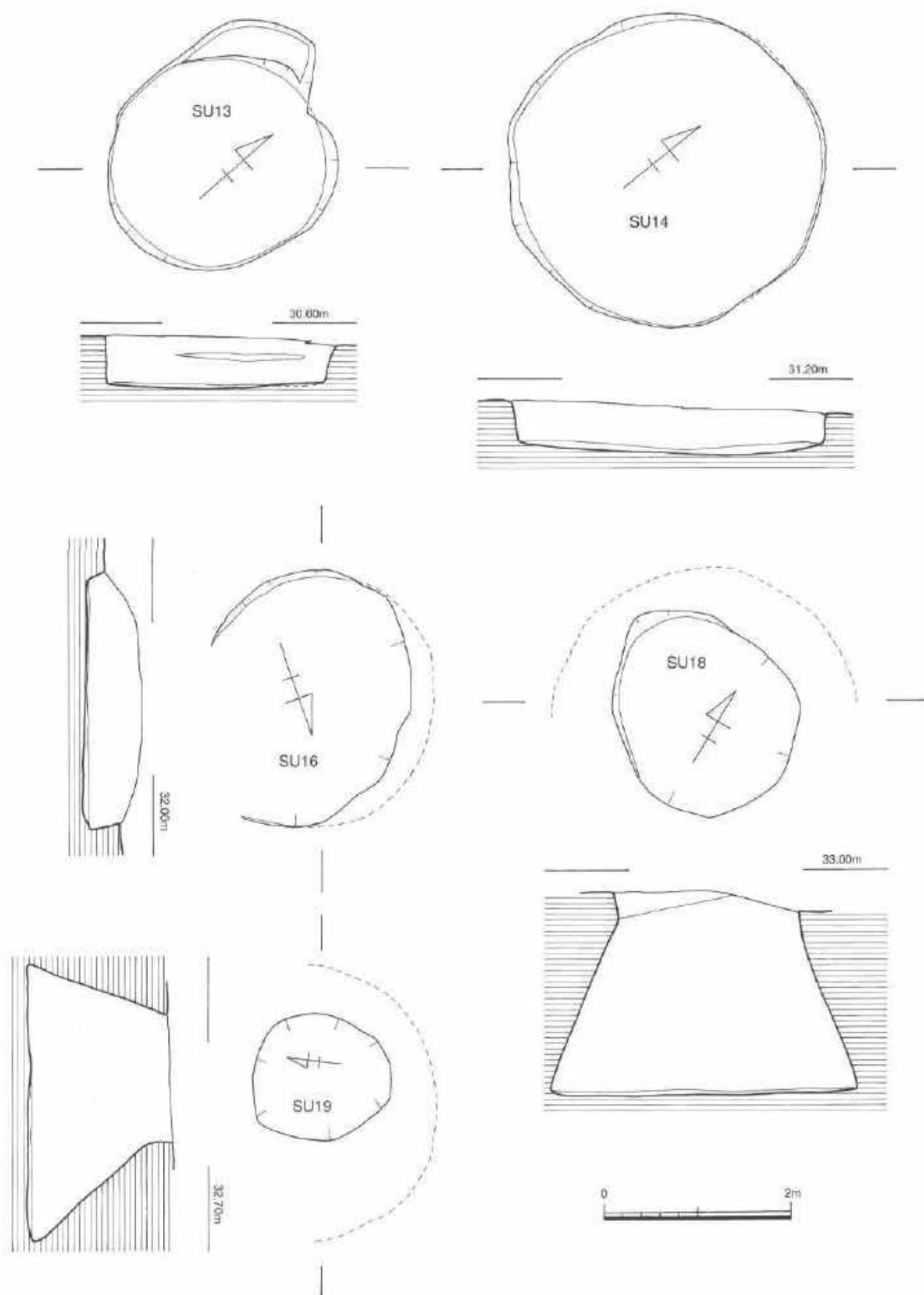
S O 3周溝出土遺物は須恵器坏身(114)がMT 15期だが、有蓋短頸壺(115)はそれよりやや新相を示すことからMT 15～TK 10(古)併行期に考え、6世紀前半代(第1～第2四半期)の造営を提示しておきたい。出土遺物のないS O 1・2については、石室プランからS O 3より先行すると考えられ、5世紀後半～末葉に考えておきたい。

参考文献

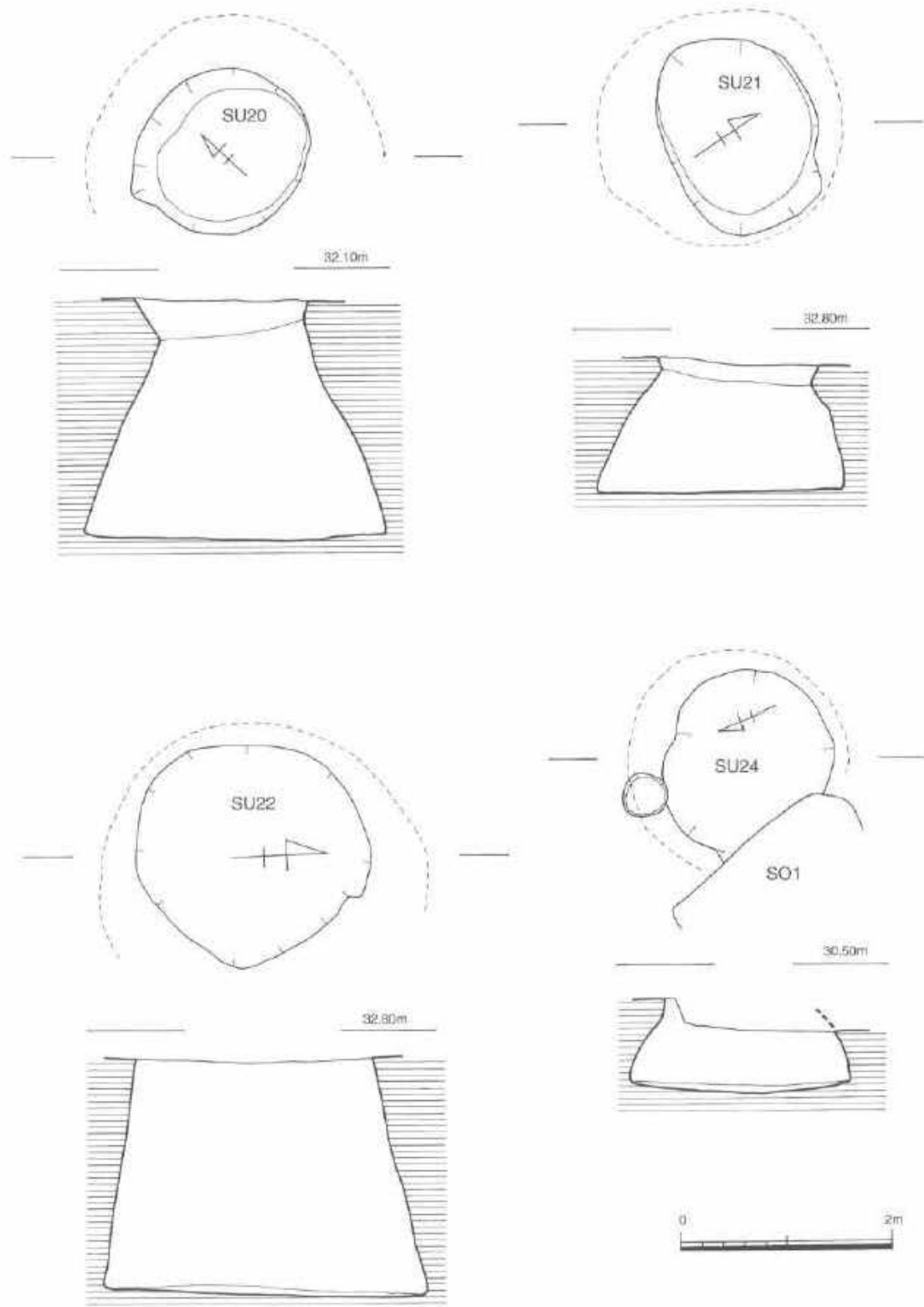
原 俊一1982「Ⅴまとめ」「浦谷古墳群Ⅰ」宗像市文化財調査報告書第5集 宗像市教育委員会



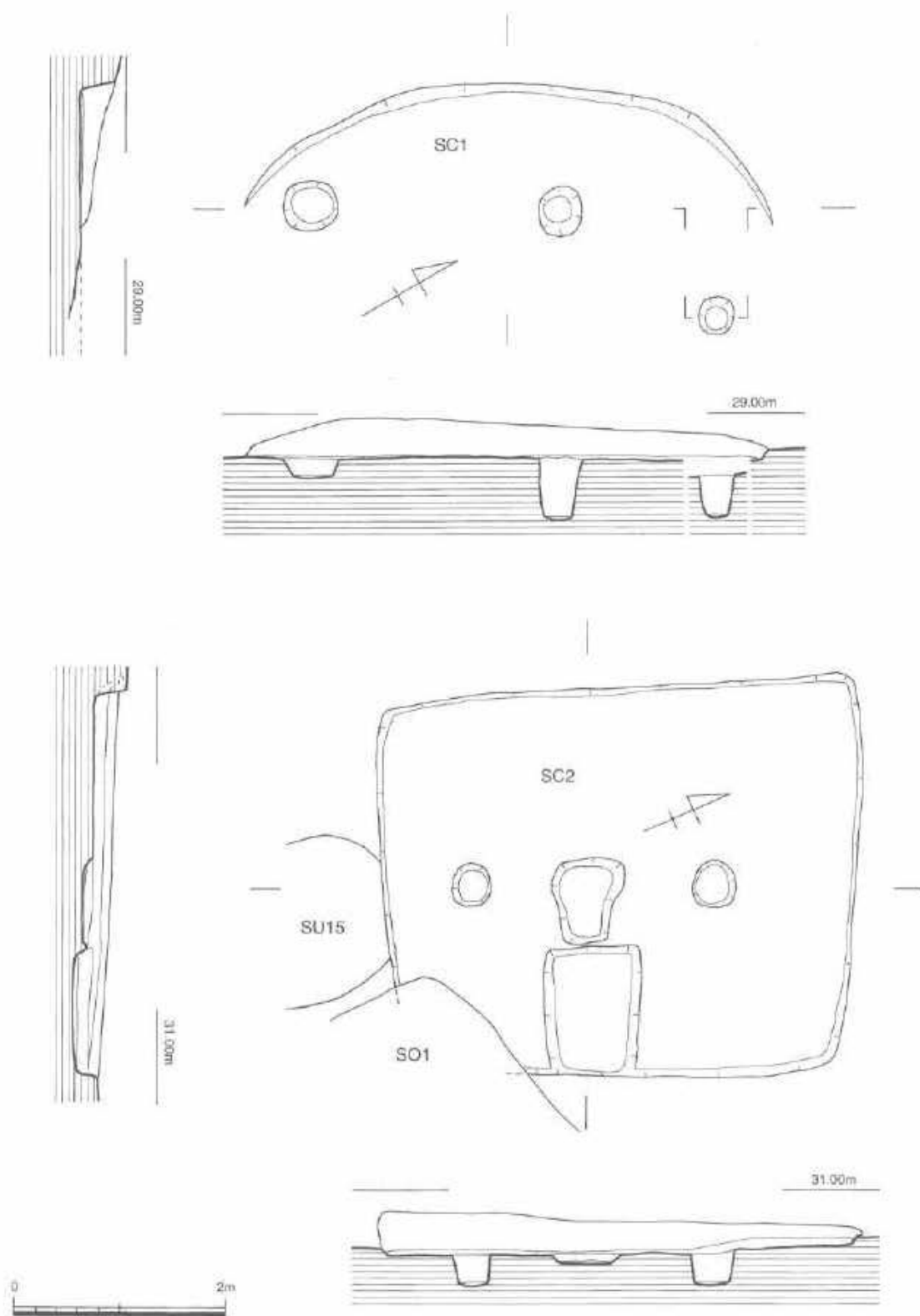
第4図 SU6~9・11・12遺構実測図 (1/60)



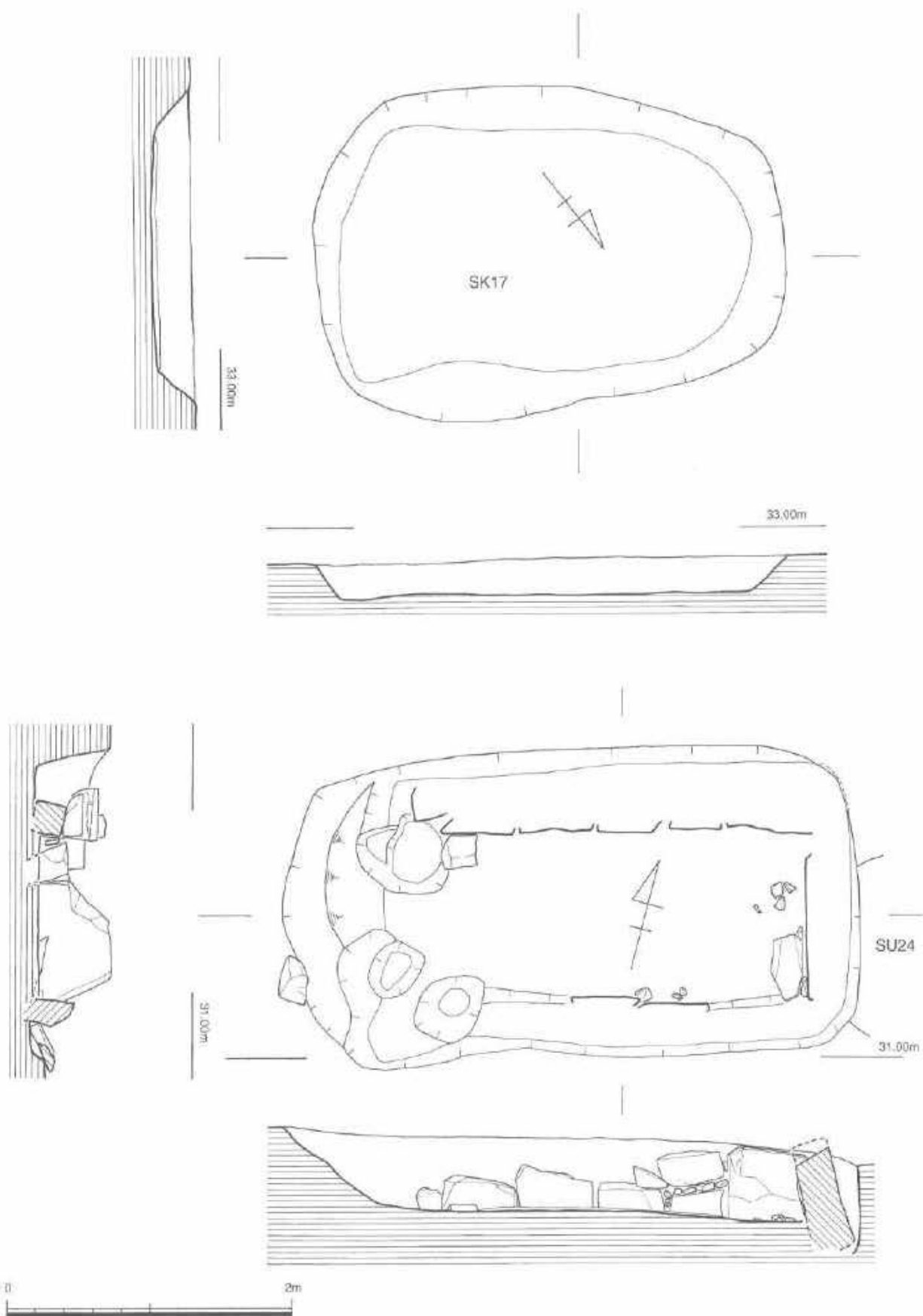
第5図 SU13・14・16・18・19遺構実測図 (1/60)



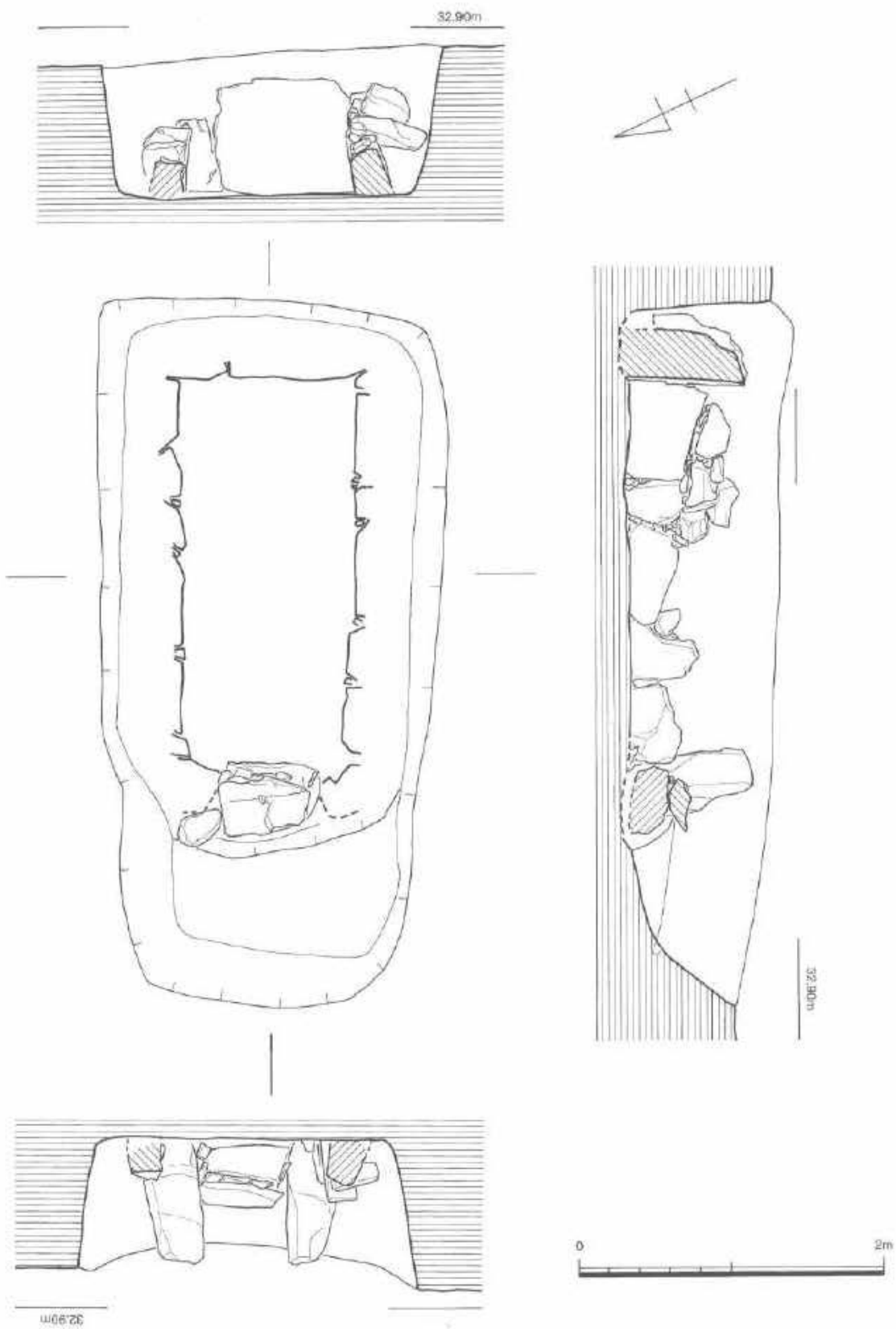
第6図 SU20~22・24遺構実測図 (1/60)



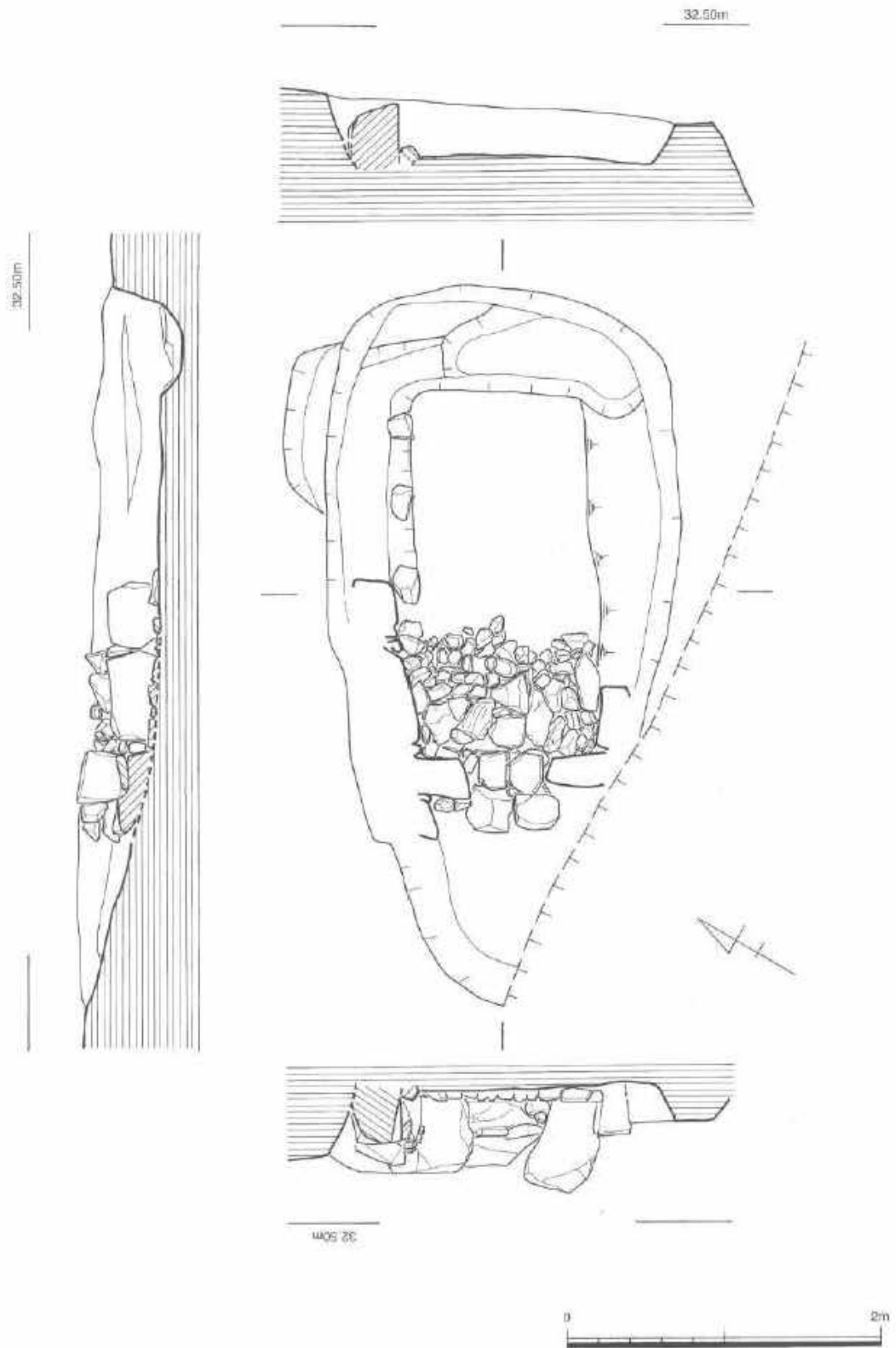
第7図 SC1・2遺構実測図 (1/60)



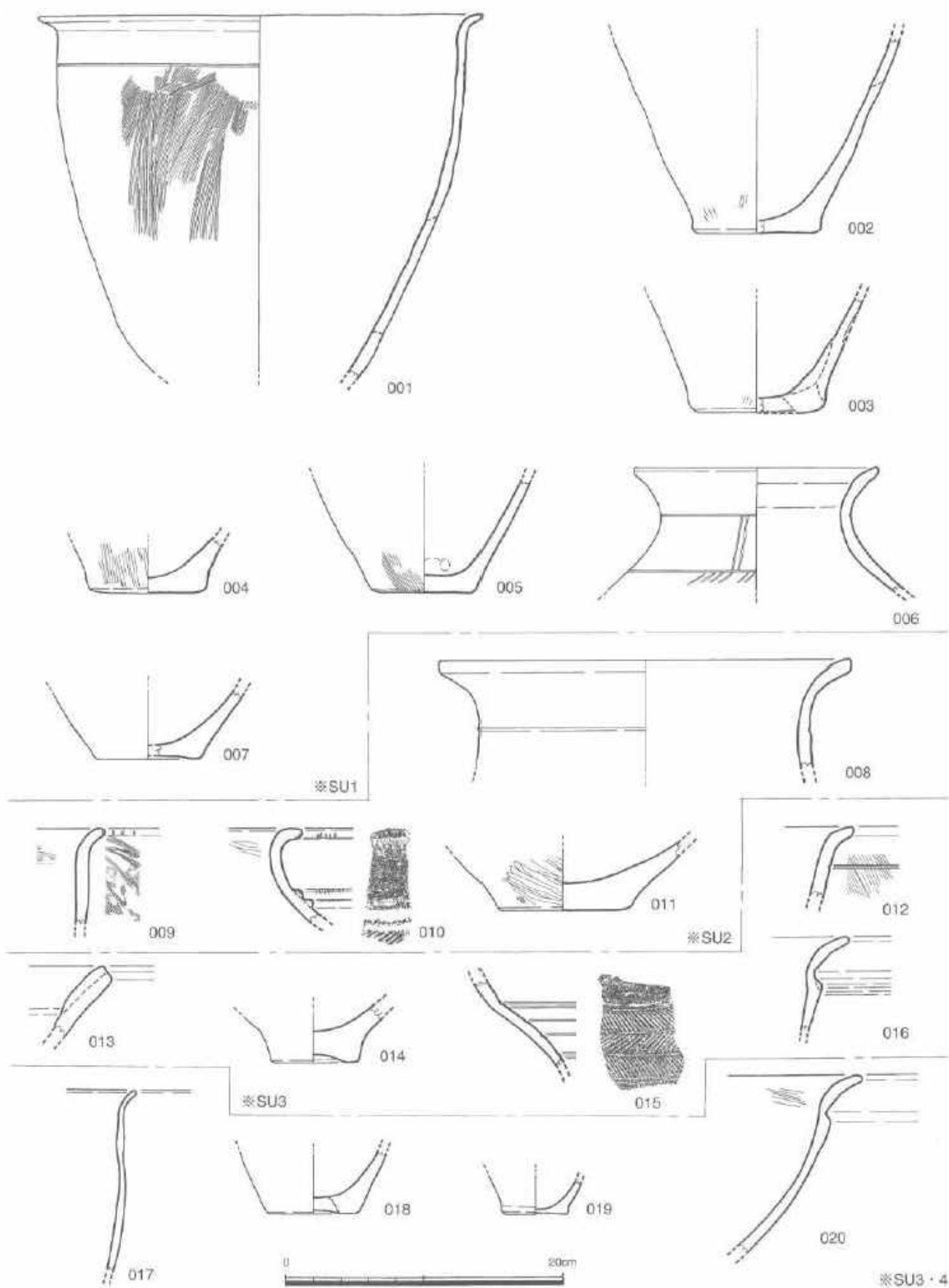
第8図 SK17遺構実測図及びSU1主体部実測図 (1/40)



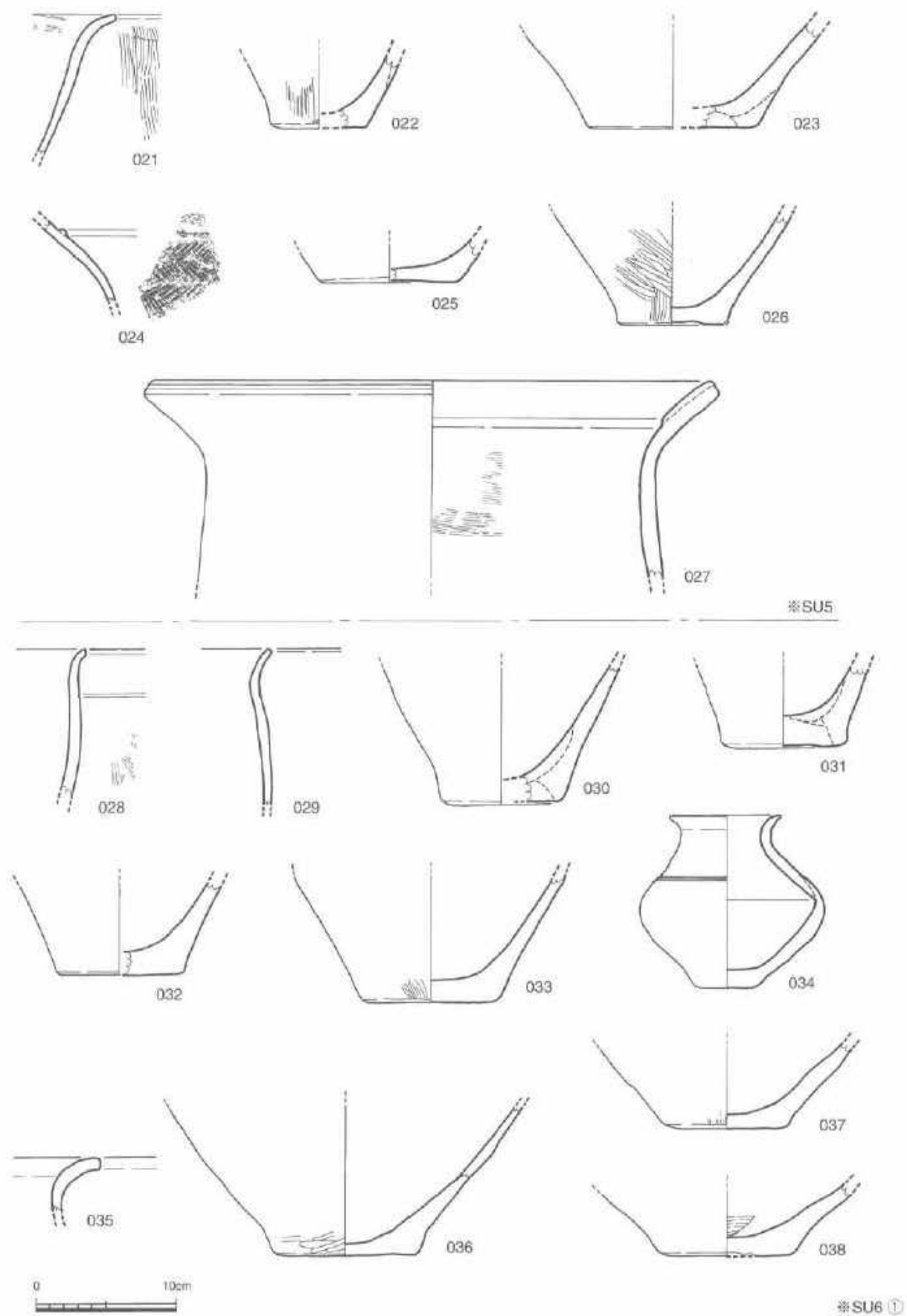
第9図 SO2主体部実測図 (1/40)



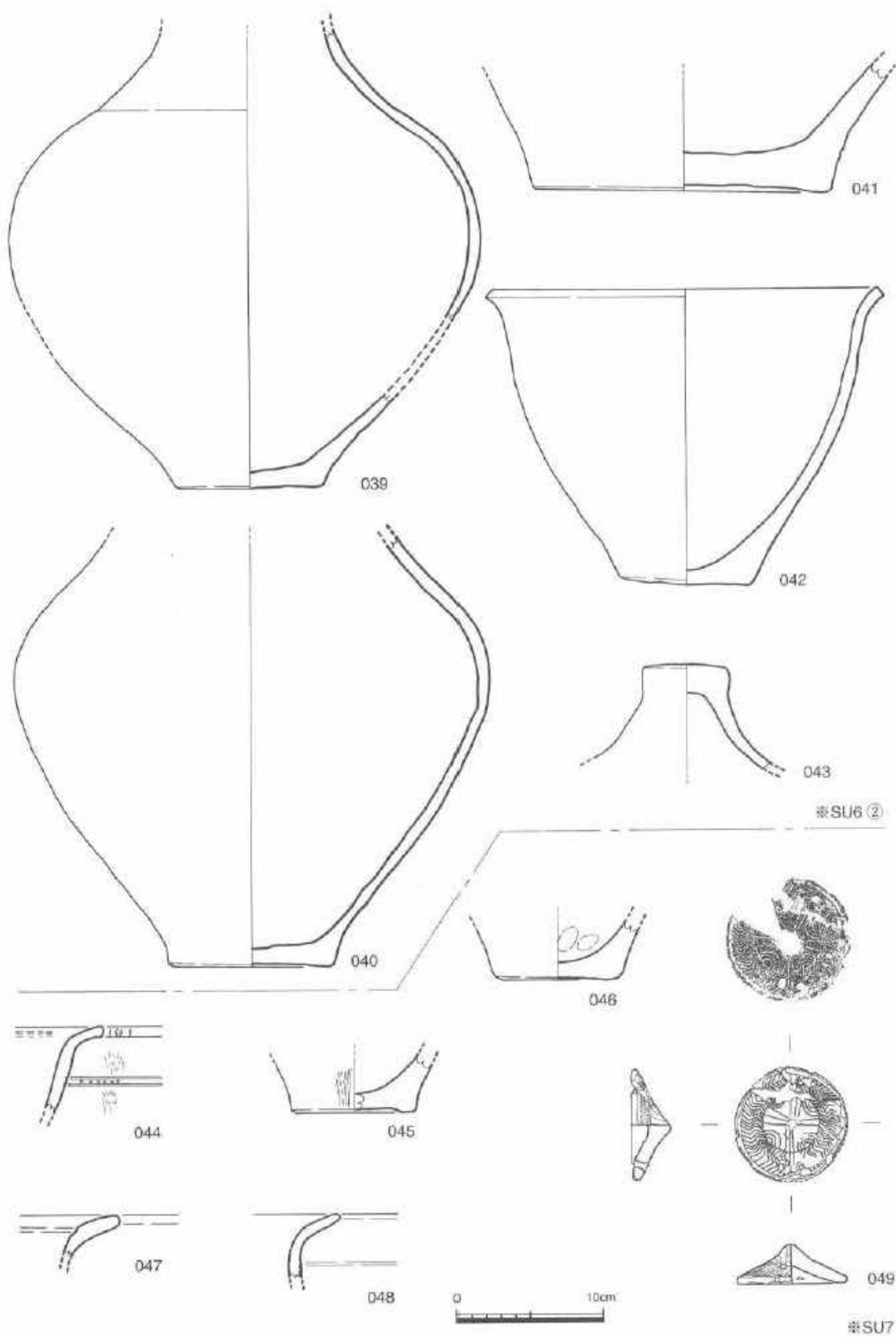
第10図 S03主体部実測図 (1/40)



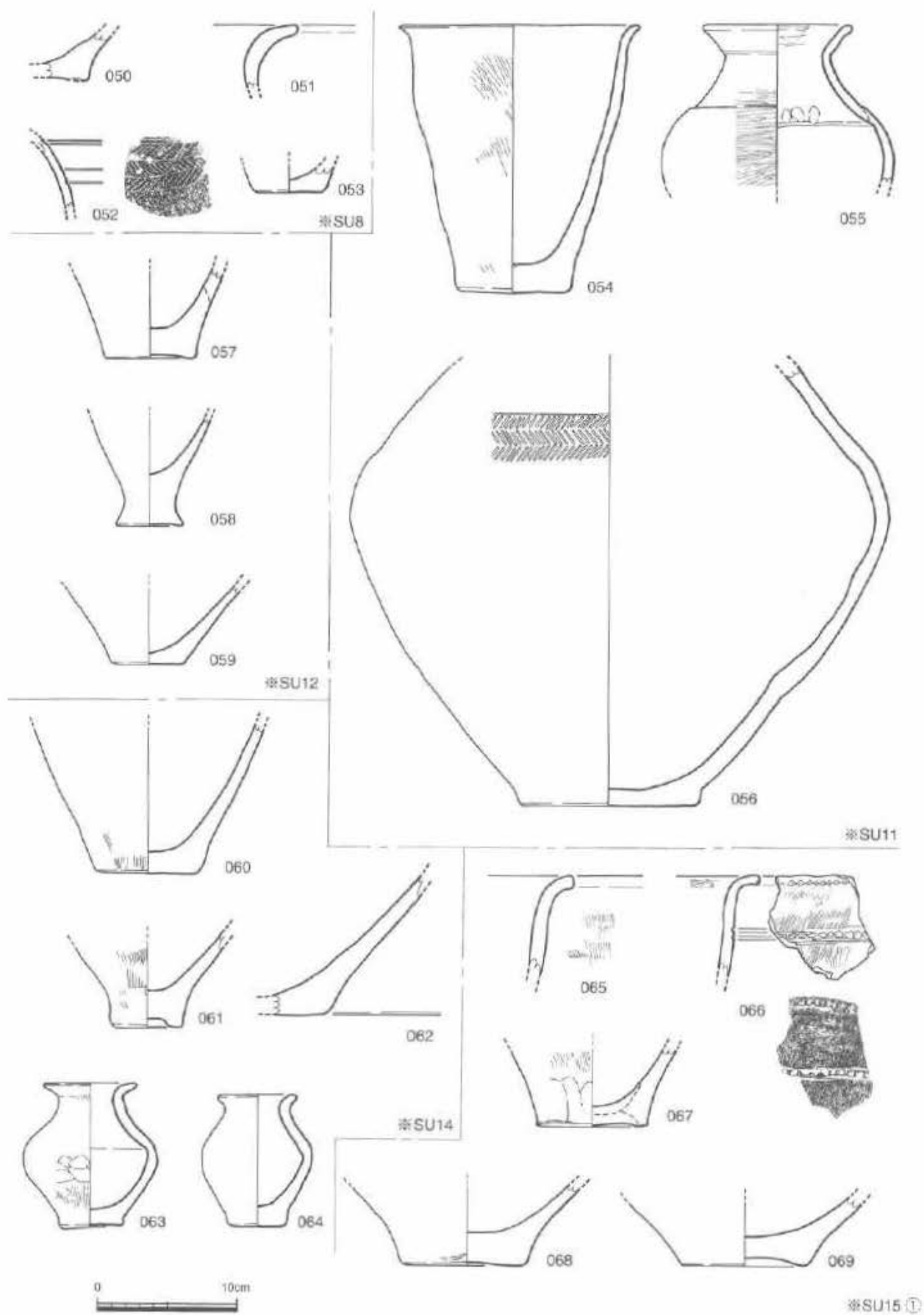
第11図 SU1~4出土遺物実測図 (1/4)



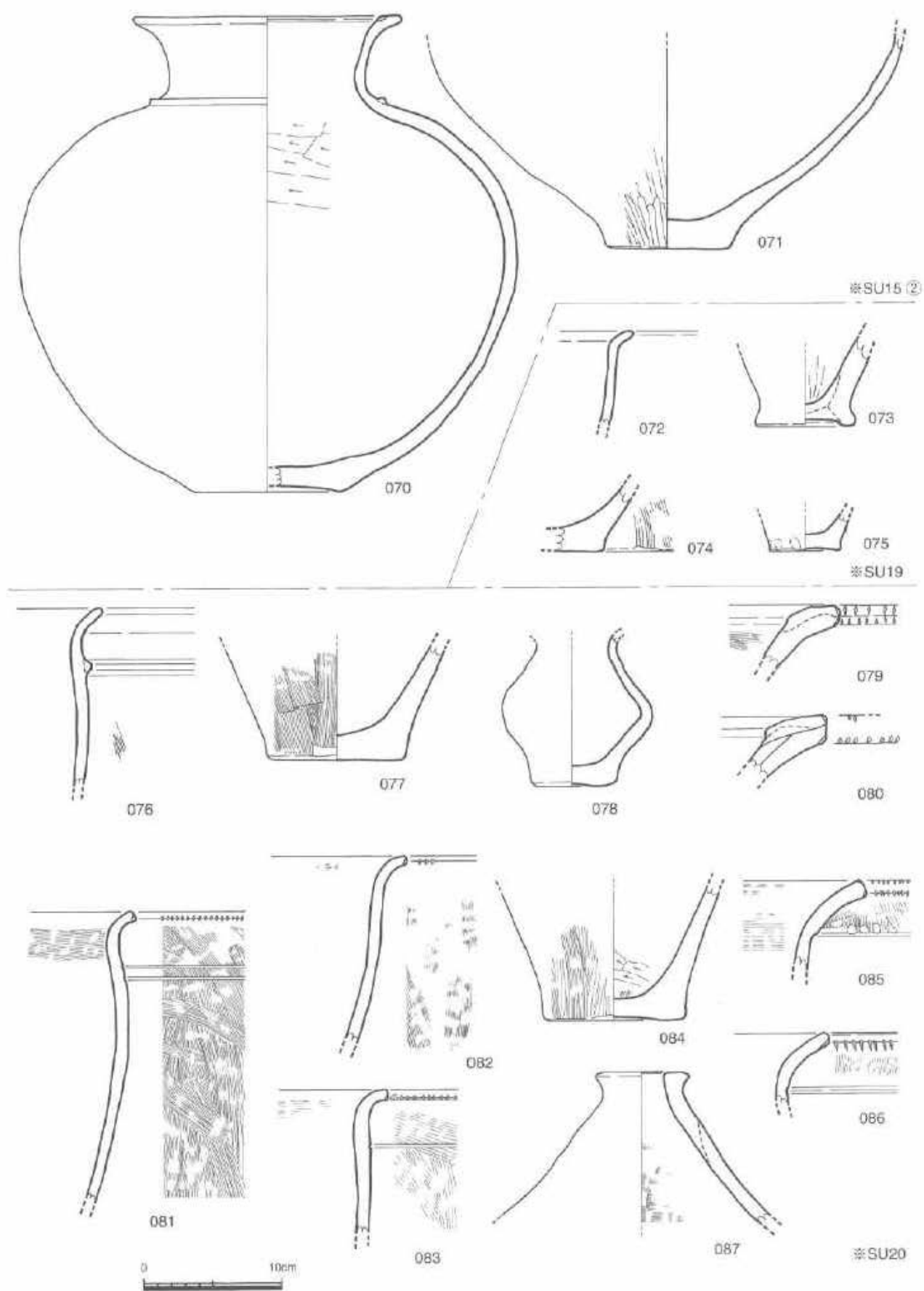
第12図 SU5・6出土遺物実測図 (1/4)



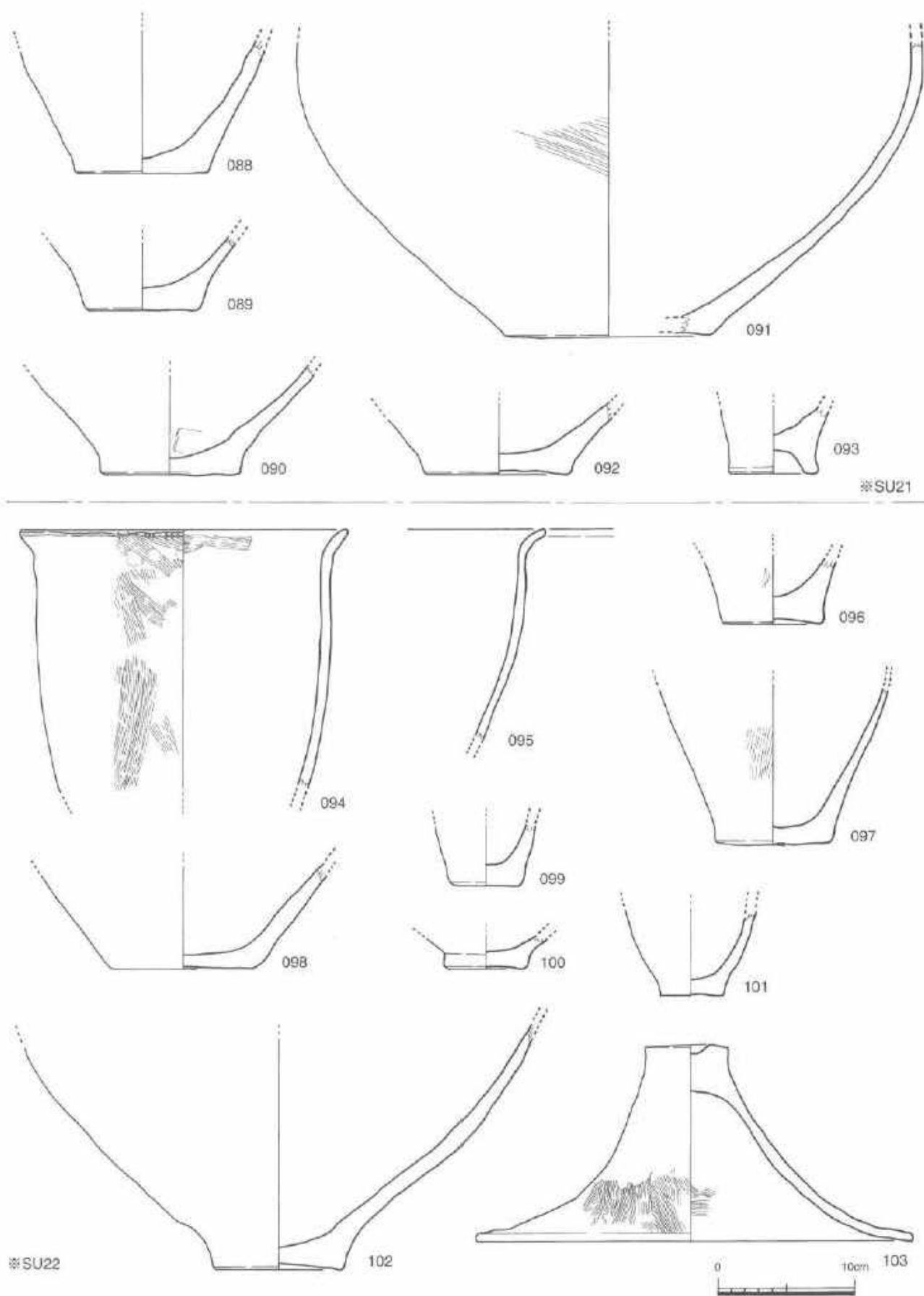
第13図 SU6・7出土遺物実測図 (1/4)



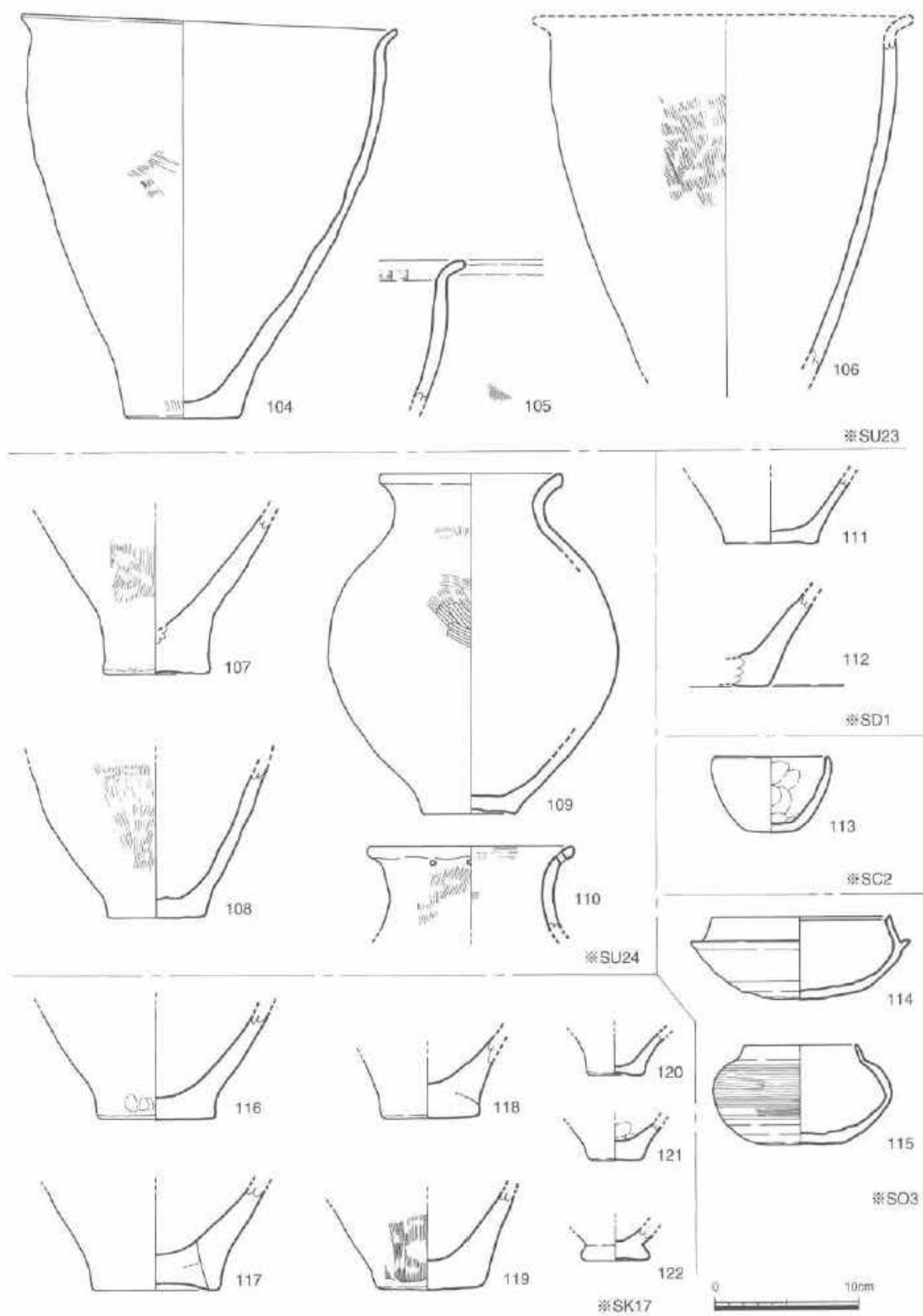
第14図 SU8・11・12・14・15出土遺物実測図 (1/4)



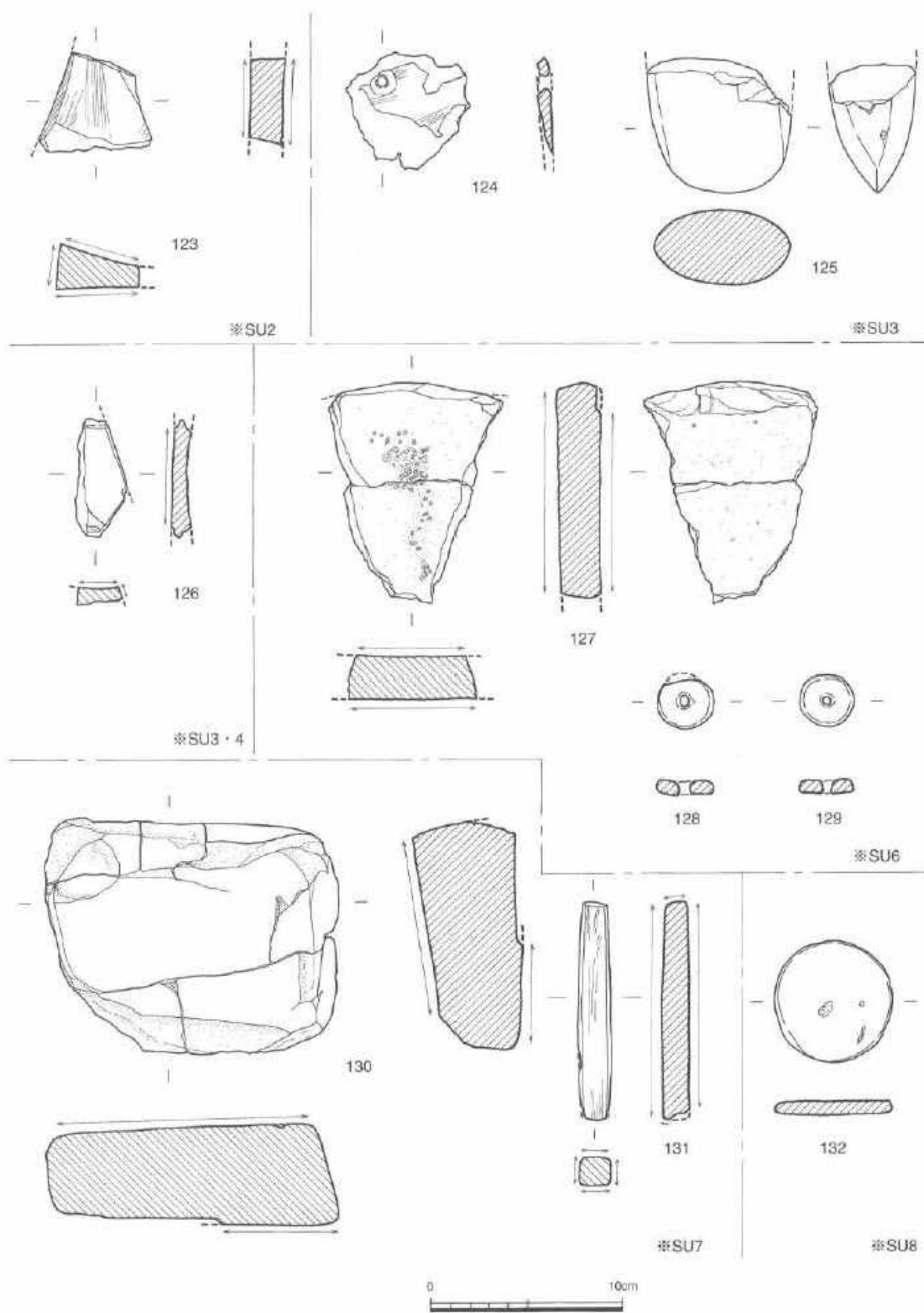
第15図 SU15・19・20出土遺物実測図 (1/4)



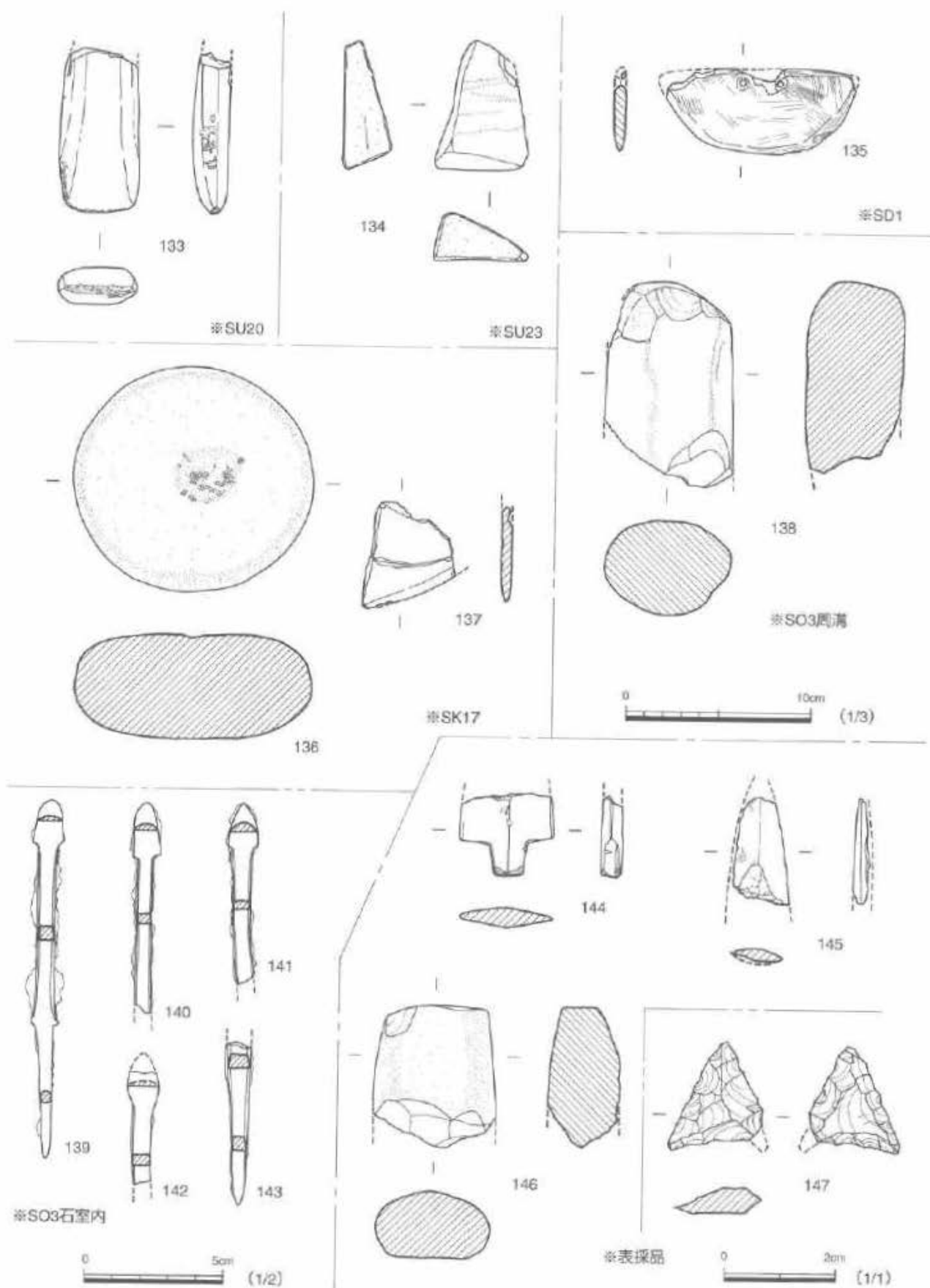
第16図 SU21・22出土遺物実測図 (1/4)



第17図 SU23・24・SD1・SC2・SO3・SK17出土遺物実測図（1/4）



第18図 各遺構出土石器・土製品実測図 (1/3)



第19図 表採及び各遺構出土石器・鉄器実測図 (1/3・1/2・1/1)

表1 光岡長尾遺跡1次 貯蔵穴計測表

単位:m

遺構番号	挿図 番号	床面形状 (役元)	底径	深さ	出土遺物(土器はすべて弥生土器)	備 考
SU1					甕、壺(001~007)	配置図になし、詳細不明。
SU2					甕、壺、砥石(008~011・123)	配置図になし、詳細不明。
SU3					SU3 甕、壺、鉢、石包丁、磨製石斧(012~016・124・125) SU3・4 甕、壺、鉢、砥石(017~020・126)	配置図になし、詳細不明。
SU4						配置図になし、詳細不明。
SU5					甕、壺(021~027)	配置図になし、詳細不明。
SU6	第4図	(円形)	2.50	1.00	甕、壺、鉢、蓋、砥石、紡錘車(028~043・127~129)	
SU7	第4図	円形	2.64	0.82	甕、壺、蓋、砥石(044~049・130・131)	
SU8	第4図	楕円形	1.90	0.42	甕、壺、紡錘車未製品(050~053・132)	
SU9	第4図	(円形)	1.96	0.54		
SU10	第3図	円形				配置図のみ、詳細不明。
SU11	第4図	円形	2.62	0.80	甕、壺(054~056)	
SU12	第4図	円形	2.82	1.26	甕、壺(057~059)	
SU13	第5図	円形	2.32	0.54		
SU14	第5図	円形	3.30	0.53	甕、壺(060~064)	
SU15	第3図	(円形)			甕、壺(065~071)	SC2に切られる。配置図のみ、詳細不明。
SU16	第5図	(円形)	2.76	0.62		
SU18	第5図	(円形)	3.28	2.20		
SU19	第5図	(円形)	2.98	1.56	甕、壺(072~075)	
SU20	第6図	(円形)	2.86	2.30	甕、壺、蓋、磨製石斧(076~087・133)	
SU21	第6図	不整円形	2.34	1.28	甕、壺(088~093)	
SU22	第6図	(円形)	3.10	2.26	甕、壺、蓋(094~103)	
SU23	第3図	円形			甕、砥石(104~106・134)	配置図のみ、詳細不明。
SU24	第6図	円形	2.10	0.92	甕、壺(107~110)	SQ1に切られる。

表2 光岡長尾遺跡1次 竪穴住居計測表

単位:m

遺構番号	挿図番号	平面形	主柱穴(本)	周壁溝	ベツト状遺構	長軸	短軸	深さ	屋内土坑 (長軸×短軸×深さ)	炉 (長軸×短軸×深さ)	出土遺物	時 期	備 考
SC1	第7図	円形	2+a	×	×	直径2.4+a	—	0.38				(弥生時代)	平面規模は直径約6mに参考復元。
SC2	第7図	長方形	2	×	?	4.58	3.68	0.3	1.23×0.95×0.15	0.82×0.67×0.1	手捏ね土器(113)	(弥生時代後期～古墳時代初頭)	SU15を切り、SO1に切られる。

表3 光岡長尾遺跡1次 古墳計測表

単位:m、():復元

遺構番号	挿図番号	墳形	墳丘規模	主体部	主軸方向	墓壇規模 (長軸×短軸×深さ)	玄室規模 (右壁長・左壁長×奥幅・中央幅・前幅×玄門幅)	出土遺物	時 期	備 考
SO1	第8図	—	—	横穴式石室	N-75°-E	4.1×2.18×0.52	?・2.56×1.18・1.16・1.1+a (1.16)×?	—	5世紀後半～末	SU24・SC2を切る。
SO2	第9図	—	—	横穴式石室	N-64°-W	4.12×2.24×1.0	2.55・2.47×1.15・1.13・1.02×0.66	—	3世紀後半～末	
SO3	第10図	円墳	直径約10m	横穴式石室	N-64°-E	4.58×2.20×0.42	2.3+a×?・1.3+a (1.36)・1.1×0.47	須志器坏身・短頸壺 (114・115)、鉄鏃(139～143)	6世紀前半代	須志器はMT15～TK10(古)併行期。

表4 光岡長尾遺跡1次 その他の遺構計測表

単位:m

遺構番号	挿図番号	平面形	長軸	短軸	最大深さ	出土遺物	時 期	備 考
SK17	第8図	不整隅丸長方形	3.28	2.2	0.26	弥生土器甕、壺、凹石、石包丁(116～122・136・137)	弥生時代前期後半	
SD1	第3図	円弧状	残存長13.5	幅1.2	1.21	弥生土器甕、壺、石包丁(111・112・135)		古墳周溝の可能性あり、円形に推定しての復元径12m。

表5 光岡長尾遺跡1次 出土土器観察表1

単位:cm、():復元

遺物 報告 番号	遺物 番号	種類	器種	口径	器高	底径	形態特徴	手法特徴	胎土	焼成	色調	備考	遺物 登録 番号
001	SU1	弥生 土器	甕	(32.0)	26.3+ α		口縁～胴部片、口縁下に一条の沈線を有す。	内面風化のため調整不明、外面縦ハケ。	良好)1～2mm程度の砂粒を多く含む。	良好	内外-橙色		00001
002	SU1	弥生 土器	甕		14.2+ α	(9.2)	胴～底部1/2残、平底。	内面風化のため調整不明、外面縦ハケわずかに残る。	良好)6mm以下の砂粒を含む。	良好	内-橙色 外-橙～明赤褐色		00003
003	SU1	弥生 土器	甕		8.2+ α	(9.4)	底部1/2残、平底。	全面風化のため調整不明。	良好)3mm以下の砂粒を含む。	良好	内-橙 外-明赤褐色		00004
004	SU1	弥生 土器	甕		4.0+ α	8.4	底部のみ完存、平底。	内面風化のため調整不明、外面縦ハケ。	良好)3mm以下の砂粒を含む。	良好	内外-橙色		00006
005	SU1	弥生 土器	甕		8.3+ α	7.6	底部のみ完存、平底。	内面指押え、黒色付着物あり、外面縦ハケ。	良好)3mm以下の砂粒を多く含む。	良好	内-橙色 外-明赤褐色		00002
006	SU1	弥生 土器	壺	(17.6)	8.9+ α		口縁～肩部1/3残、口縁部下と肩部に沈線、その間に二本単位の縦へり描き、肩部沈線下に羽状文。	全面風化のため調整不明。	良好)3mm以下の砂粒を多く含む。	良好	内外-橙色		00005
007	SU1	弥生 土器	壺		5.0+ α	(7.4)	底部1/2残、平底。	内面・底部ナデ、外面風化のため調整不明。	良好)2mm以下の砂粒を多く含む。	良好	内外-橙色		00007
008	SU2	弥生 土器	壺	(29.8)	7.8+ α		口縁部片、頸部下に沈線を施す。	全面風化のため調整不明。	良好)4mm以下の白色砂粒をやや多く含む。	良好	内外-橙色		00008
009	SU2	弥生 土器	甕		6.8+ α		如意状口縁部片、口唇部下端に刻目を施す。	内面横ハケ、外面細かいハケ目、外面スリッ掛け。	良好)3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	内外-明赤褐色		00011
010	SU2	弥生 土器	壺		6.8+ α		口縁部片、口唇部下端に刻目、肩部に2条の刻目凸帯、その下羽状文。	内面横位ミガキ、ナデ仕上げ、外面ミガキ。	良好)1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	内-黒褐～浅黄色 外-にぶい黄褐色	内面黒色 付着物あり。	00010
011	SU2	弥生 土器	壺		5.1+ α	9.7	底部のみ完存、平底。	内面風化のため調整不明、外面ハケ目調整後ミガキ。	良好)2mm以下の砂粒を含む。	良好	内-にぶい黄褐色 外-黒～にぶい黄褐色		00009
012	SU3	弥生 土器	甕		5.4+ α		如意状口縁部片、口縁部下に1条の沈線。	内面ナデ、外面口縁下横ナデ、縦ハケ。	良好)3mm以下の白色砂粒を多く含む。	良好	内外-橙色		00016
013	SU3	弥生 土器	甕		5.3+ α		口縁部片、口縁部は内側に粘土紐を貼付け、肥厚させる。口縁部下端には刻目か。	全面風化のため調整不明。	良好)2mm程度の砂粒を多く含む。	不良・軟調	内-灰色 外-浅黄色		00015
014	SU3	弥生 土器	壺		4.2+ α	6.4	底部のみ完存、やや上げ底。	内面ナデ、外面ミガキか。	良好)2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	内-橙色 外-明黄褐～紺灰色		00014
015	SU3	弥生 土器	壺		6.5+ α		肩部片、口頸部と胴部の境に2条の沈線、その下に有軸羽状文を施す。	内面ナデ、外面ミガキ。	良好)2mm以下の砂粒を含む。	良好	内外-橙色		00012
016	SU3	弥生 土器	深鉢		6.9+ α		口縁部片、縄文系深鉢、屈曲部に突帯を付す。	全面風化のため調整不明。	良好)1mm程度の砂粒を含む。	良好	内外-明黄褐色		00013
017	SU3・4	弥生 土器	甕		13.2+ α		口縁～胴部片、如意状口縁。	全面風化進むが、外面一部縦ハケ残存。	良好)5mm以下の白色砂粒を多く含む。	やや不良	内-明赤褐色 外-赤褐色		00018
018	SU3・4	弥生 土器	甕		4.6+ α	6.7	底部約1/2残、ほぼ平底。	全面風化のため調整不明。	良好)3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	内-明黄褐色 外-橙色		00020
019	SU3・4	弥生 土器	小壺		2.8+ α	4.9	小壺であろう。底部のみ完存、平底。	全面風化のため調整不明。	良好)3mm以下の砂粒を含む。	やや不良	内外-浅黄色		00017
020	SU3・4	弥生 土器	浅鉢		12.9+ α		口縁～胴部片、縄文系浅鉢。	口縁部内面横ハケ、外面風化のため調整不明。	良好)3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	内外-橙色		00019
021	SU5	弥生 土器	甕		10.0+ α		口縁～胴部片、如意状口縁。	内面横ハケ後ナデ、外面粗い縦ハケ。	良好)3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	内外-明赤褐色		00022
022	SU5	弥生 土器	甕		5.3+ α	6.8	底部のみほぼ完存、底部中央の欠損は焼成後穿孔ではない。	内面ナデ、外面縦ハケ。	良好)3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	内-にぶい黄褐色 外-橙色		00024
023	SU5	弥生 土器	壺		7.3+ α	(12.0)	底部片、平底。	全面風化のため調整不明。	良好)3mm以下の砂粒を含む。	良好	内外-橙色		00026
024	SU5	弥生 土器	壺		5.8+ α		肩部片、三角凸帯を1条巡らし、凸帯下に無軸羽状文を施す。	内外面風化のため調整不明。	良好)2mm以下の砂粒を含む。	良好	内-にぶい黄褐色 外-橙色		00025

表5 光岡長尾遺跡1次 出土土器観察表2

単位:cm,():復元

遺物 報告 番号	遺構 番号	種類	器種	口径	器高	底径	形態特徴	手法特徴	胎土	焼成	色調	備考	遺物 登録 番号
025	SU5	弥生 土器	壺		3.1+ α	(10.0)	底部約1/2残、平底。	内外面風化のため調整不明。	良)3mm以下の砂粒を多く含む。	良	内外-橙色		00027
026	SU5	弥生 土器	壺		8.0+ α	7.9	底部のみ完存、平底。	内面風化のため調整不明、外面縦ハケ後、丁寧なミガキ。	良)4mm以下の白色砂粒を含む。	良	内-明赤褐色 外-橙～明赤褐色	外面黒斑あり。	00021
027	SU5	弥生 土器	壺	(39.4)	19.2+ α		大形壺、口縁～胴部約1/2残、口縁部は内側に粘土紐を貼付け、肥厚させる。	内面横ハケ、外面風化のため調整不明。	良)4mm以下の砂粒を多く含む。	やや不良	内-ぶい黄橙色 外-ぶい黄橙～黄灰色		00023
028	SU6	弥生 土器	甕		10.6+ α		如意状口縁部片、口唇部に刻目か。口縁部下に沈線を1条巡らす。	胴部外面ハケ目、他は風化のため調整不明。	良)3mm以下の砂粒を多く含む。	良	内-浅黄～橙色 外-ぶい黄橙色		00043
029	SU6	弥生 土器	甕		11.0+ α		如意状口縁部片。	全面風化のため調整不明。	良)3mm以下の砂粒を含む。	良	内-橙色 外-ぶい黄橙色		00042
030	SU6	弥生 土器	壺		9.8+ α	8.3	底部約3/4残、平底。	全面風化のため調整不明。	良)3mm以下の砂粒を少量含む。	良	内-明黄褐色 外-赤褐～灰褐色	2次焼成受ける。	00034
031	SU6	弥生 土器	壺		5.6+ α	(8.6)	底部約1/2残、平底。	全面風化のため調整不明。	良)3～5mmの白色砂粒を多く含む。	良	内-黄橙色 外-赤褐色	2次焼成受ける。	00036
032	SU6	弥生 土器	甕		6.5+ α	(9.0)	底部1/2弱残、平底。	全面風化のため調整不明。	良好)2mm以下の砂粒をわずかに含む。	良	内-明黄褐色 外-ぶい橙～橙色		00037
033	SU6	弥生 土器	甕		9.1+ α	9.6	底部約4/5残、平底。	全面風化進むが、底部外面に一部縦ハケ残存。	良好)3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	内-橙色 外-赤～明赤褐色	1次焼成受ける。内首尾部分も焼成。	00035
034	SU6	弥生 土器	小壺	8.0	12.2	4.0	口縁の一部欠くがほぼ完形、口縁部下に甘い段、肩部に2条の沈線。	底部内面指押え、外面ミガキ。	良好)3mm以下の砂粒を少量含む。	良	内-灰色 外-橙色	外面黒斑あり。	00032
035	SU6	弥生 土器	壺		4.0+ α		大きく外反する口縁部片。	全面風化のため調整不明。	やや粗)3mm以下の砂粒を多く含む。	良	内外-橙色		00041
036	SU6	弥生 土器	壺		10.6+ α	10.2	胴部下～底部完存、平底。	全面風化のため調整不明、底部外面にミガキ残存。	良)3mm以下の砂粒を多く含む。	やや不良	内外-橙色		00038
037	SU6	弥生 土器	壺		6.0+ α	8.8	底部のみ完存、平底。	全面風化進むが、底部外面に縦ハケ残存。	やや粗)2～4mmの砂粒を多く含む。	良好	内外-黄橙～明黄褐色		00039
038	SU6	弥生 土器	直		5.0+ α	(9.8)	底部片、平底。	内面板ナデ後ナデ、外面横方向ミガキ。	良好)2mm以下の砂粒を含む。	良	内-灰褐色 外-橙～赤色	2次焼成受ける。	00040
039	SU6	弥生 土器	壺		31.6+ α	10.1	口縁部を欠く。頸部と胴部の境に甘い段をつくる。	全面風化のため調整不明。	良)1mm程度の砂粒を多く含む。	やや不良	内外-黄褐色		00028
040	SU6	弥生 土器	壺		29.5+ α	11.2	口縁部を欠く。頸部と胴部の境に段なし。	全面風化のため調整不明。	良)1～2mmの砂粒を多く含む。	やや不良	内外-黄褐色		00029
041	SU6	弥生 土器	壺		8.8+ α	20.6	底部のみ完存、平底。	全面風化のため調整不明。	良好)1～2mm程度の砂粒を含む。	良	内外-橙色		00031
042	SU6	弥生 土器	甕	(26.4)	20.4	10.1	口縁～底部約1/2残。	内面風化のため調整不明、外面風化著しいが、ナデ仕上げ。	やや粗)7mm以下の砂粒を多く含む。	やや不良	内外-黄褐～褐色	外面黒斑あり。	00030
043	SU6	弥生 土器	蓋		7.3+ α		ツマミ部のみ完存、ツマミ上面は平坦。	全面風化のため調整不明。	良)3mm以下の砂粒を多く含む。	良好	内外-明黄褐色	内面黒斑あり。	00033
044	SU7	弥生 土器	甕		6.0+ α		如意状口縁部片、口唇部に刻目、口縁下に2条の沈線、その間に刺突文。	内面横ハケ、外面縦ハケ後ナデ。	良好)2mm以下の砂粒を含む。	良	内外-橙色		00049
045	SU7	弥生 土器	甕		4.0+ α	(8.6)	底部約1/2弱残、わずかに平底。	内面風化のため調整不明、外面縦ハケわずかに残る。	良好)1mm以下の砂粒を少量含む。	良	内外-橙色		00046
046	SU7	弥生 土器	甕		4.1+ α	(8.8)	底部約1/3残、平底。	全面風化進むが底部内面指押え。	良好)2mm以下の砂粒を含む。	良	内外-橙色		00045
047	SU7	弥生 土器	壺		3.1+ α		口縁部片、内面をわずかに肥厚させ、甘い段をつくる。	全面風化のため調整不明。	良)2mm程度の砂粒を含む。	良	内-黄褐色 外-橙色		00047
048	SU7	弥生 土器	壺		4.4+ α		口縁部片、口縁部下に段をつくる。	全面風化のため調整不明。	良)2～3mmの砂粒を含む。	不良	内外-ぶい黄色		00048

表5 光岡長尾遺跡1次 出土土器観察表3

単位:cm, ():復元

遺物 報告 番号	遺構 番号	種類	器種	口径	器高	底径	形態特徴	手法特徴	胎土	焼成	色調	備考	遺物 登録 番号
049	SU7	弥生 土器	蓋	直径1.7	2.7		ほぼ完形、2穴穿孔を対に有し、無軸羽 状文・円弧文等刻む。	全面ナデ。	やや粗)5mm以下の砂 粒を多く含む。	良	内外-赤褐～黒褐色		00044
050	SU8	弥生 土器	壺		3.4+ α		底部小片、平底。	全面風化のため調整不明。	良)2mm以下の砂粒を 多く含む。	良	内-ぶい褐色 外-ぶい赤褐～橙色		00052
051	SU8	弥生 土器	壺		4.6+ α		口縁部片。	全面風化のため調整不明。	良)2mm程度の砂粒を 多く含む。	良	内外-黄褐色		00051
052	SU8	弥生 土器	壺		5.2+ α		胴部小片、口頸部と胴部の境に沈線を 2条、その直下から有軸羽状文。	内面丁寧なナデ又はミガキ、外 面風化進むがナデか。	良好)2mm以下の砂 粒を少量含む。	良	内外-褐色		00050
053	SU8	弥生 土器	小壺		1.9+ α	6.3	小壺であろう。底部1/2残、平底。	全面風化進むがナデか。	良好)1mm以下の砂 粒をわずかに含む。	良	内-ぶい褐色 外-黄褐色		00053
054	SU11	弥生 土器	甕 (17.0)	18.7	8.3		底部は完存、如意状口縁を呈し平底。	内面ナデ、底部内面ケズリ後ナデ、 外面縦ハケ。	良好)2mm以下の砂 粒を少量含む。	良	内-ぶい黄褐色 外-ぶい黄褐～明赤褐色	2次焼成受 ける。	00056
055	SU11	弥生 土器	壺 (10.6)	11.4+ α			口縁部の大半と胴部下半を欠く。口縁 部下、口頸部と胴部の境に段。	胴部内面指押え、外面丁寧なヘ ラミガキ。	良好(緻密)砂粒をほと んど含まない。	良好	内外-暗赤褐色		00055
056	SU11	弥生 土器	壺		31.5+ α	12.6	口頸部を欠く。口頸部と胴部の境に沈 線1条、その下に無軸羽状文。	全面風化のため調整不明。	良)1mm程度の砂粒を 多く含む。	良	内外-明赤褐色		00054
057	SU12	弥生 土器	甕		6.7+ α	6.45	底部のみ完存。	風化進むが全面ナデか。	良)2～4mmの白色砂 粒を含む。	良好	内外-褐色		00057
058	SU12	弥生 土器	甕		7.8+ α	4.8	底部のみ完存、厚手の平底。	内面ナデ、外面風化のため調整 不明。	良好)3mm以下の砂 粒を含む。	良好	内-ぶい黄褐色 外-橙～明黄褐色	2次焼成、内面 黒色付着物。	00059
059	SU12	弥生 土器	壺		5.8+ α	5.3	底部のみ完存、平底。	全面風化進むが外面ナデか。	良好)3mm以下の砂 粒を含む。	良	内-黄灰色 外-橙～明黄褐色		00058
060	SU14	弥生 土器	壺		10.8+ α	7.6	底部のみ完存、平底。	内面ナデ、外面一部縦ハケ残る。	良)2mm以下の砂粒を 含む。	良	内外-赤褐色		00063
061	SU14	弥生 土器	甕		7.0+ α	5.4	底部のみ完存、高台状の上げ底。	内面ナデ、外面縦ハケ、上げ底 部分指押え。	良好)2mm以下の砂 粒を少量含む。	良	内-黄褐色 外-ぶい赤褐～灰褐色		00064
062	SU14	弥生 土器	壺		10.0+ α		底部片、平底。	内面風化のため調整不明、外面 ナデ。	良)3mm以下の砂粒を 含む。	良好	内-明黄褐色 外-赤褐～ぶい黄褐色		00062
063	SU14	弥生 土器	小壺	6.3	10.4	4.6	ほぼ完形。平底で胴部は横に張り口縁 部は短く外反する。	胴部外面中位指押え、下半縦ハ ケ後ナデ。	良)3mm以下の砂粒を 含む。	やや不良	内外-黄褐～赤褐色		00061
064	SU14	弥生 土器	小壺 (5.4)	9.5	4.2		ほぼ完形。平底、長胴で口縁部は短く外 反する。	内外面風化のため調整不明。	良)3mm以下の砂粒を 多く含む。	やや不良	内外-黄褐～赤褐色	外面黒変 あり。	00060
065	SU15	弥生 土器	甕		7.4+ α		如意状口縁部片。	内面ナデ、外面縦ハケ。	良)2mm以下の砂粒を 多く含む。	良	内-明黄褐色 外-褐灰色		00069
066	SU15	弥生 土器	甕		7.2+ α		如意状口縁部片、口唇部下端に刻目、 口縁下に沈線2条、その間に刺突文。	内面ナデ、外面縦ハケ。	良好)3mm以下の砂 粒を含む。	良好	内外-明褐色 沈線より下は黒色		00065
067	SU15	弥生 土器	甕		5.7+ α	(8.0)	底部片、わずかに上げ底。	内面ナデ、外面ハケ後ケズリ状 の板ナデ。	良好)1mm以下の砂 粒を少量含む。	良好	内-明黄褐色 外-明黄褐色～ぶい褐色	外面黒変 あり。	00067
068	SU15	弥生 土器	壺		5.6+ α	9.1	底部のみ完存、平底。	全面風化進むが外面に細かい 縦ハケ残る。	良好)2mm以下の白色 砂粒をわずかに含む。	良	内外-褐色		00066
069	SU15	弥生 土器	壺		5.0+ α	(9.0)	底部1/2弱残、上げ底。	全面風化のため調整不明。	良)2～3mmの白色砂 粒を多く含む。	良	内-明黄褐～褐色 外-褐色		00068
070	SU15	弥生 土器	壺 (16.4)	34.5	(10.6)		1/3残、口縁部内面肥厚、口縁直下に三 角凸帯を1条巡らす。	内面ケズリ後ナデ仕上げ、外面 風化のため調整不明。	良)3mm以下の砂粒を 含む。	やや良	内外-灰黄色	SC2に混入。	00071
071	SU15	弥生 土器	壺		15.4+ α	9.1	胴部下半～底部残、平底。	底部外面縦方向ミガキ、内面は 板ナデ及び丁寧なナデ。	良好)1mm程度の砂 粒を少量含む。	良好	内外-明黄褐色	SC2に混入。	00070

表5 光岡長尾遺跡1次 出土土器観察表4

単位:cm、() :復元

遺物 報告 番号	遺構 番号	種類	器種	口径	器高	底径	形態特徴	手法特徴	胎土	焼成	色調	備考	遺物 登録 番号
072	SU19	弥生 土器	甕		6.7+ α		如意状口縁部片。	全面風化のため調整不明。	良好)2mm以下の砂粒を多く含む。	やや不良	内-橙～明赤褐色 外-明赤褐色		00073
073	SU19	弥生 土器	甕		5.1+ α	(7.4)	底部片、わずかに上げ底。	内面ナデ、しじみ痕、外面風化のため調整不明。	やや粗)2mm以下の砂粒を少量含む。	良	内-橙色 外-いぼい濁～明赤褐色		00072
074	SU19	弥生 土器	甕		4.7+ α		底部片、平底。	内面ナデ、外面縦ハケ。	良好)2mm以下の砂粒を含む。	良	内-橙色 外-明褐～褐灰色		00075
075	SU19	弥生 土器	小甕		2.4+ α	(5.2)	底部4/5残、平底。	内外面ナデ、底部外面指押え残。	良好)2mm以下の砂粒を多く含む。	良好	内外-橙～明赤褐色		00074
076	SU20	弥生 土器	甕		12.9+ α		如意状口縁～胴部片、口縁部下に三角凸帯を1条巡らす。	内面ナデ、胴部外面斜方向ハケ。	良好)1mm以下の砂粒を含む。	良	内外-明赤褐色		00079
077	SU20	弥生 土器	甕		8.0+ α	10.5	底部のみ完存、平底。	内面風化のため調整不明、外面縦ハケ。	良好)2mm程度の砂粒を含む。	良好	内-褐色 外-黄橙～橙色		00080
078	SU20	弥生 土器	小甕		11.0+ α	6.2	口縁部を欠くが他はほぼ完形。底部は平底で胴部は強く横に張る。	全面風化著しいが、ナデ仕上げか。	良好)3mm以下の砂粒を少量含む。	やや不良	内-黒褐色 外-黄灰色		00076
079	SU20	弥生 土器	甕		4.6+ α		口縁部小片。内面を粘土貼り付けて肥厚させ、段をつくる。口唇部上下端に刻目を施す。	内面横ハケ、外面風化のため調整不明。	良好)3mm以下の砂粒を含む。	良	内-褐色 外-黄褐色		00077
080	SU20	弥生 土器	壺		4.3+ α		口縁部小片。内面を粘土貼り付けて肥厚させ、段をつくる。口唇部上下端に刻目を施す。	内面風化のため調整不明、外面ナデ。	良好)2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	内-黄橙色 外-橙色	口縁部 黒斑あり。	00078
081	SU20	弥生 土器	甕		21.2+ α		如意状口縁～胴部1/4残、口唇部下端に刻目、口縁部下に2条の沈線を巡らす。	口縁部内面横ハケ、胴部内面風化のため不明、外面縦及び斜方向ハケ。	良好)2mm以下の砂粒を含む。	良好	内-いぼい橙色 外-いぼい橙～橙色		00085
082	SU20	弥生 土器	甕		13.6+ α		如意状口縁片、口唇部下端に刻目を施す。	口縁部内面横ハケ、胴部内面風化のため不明、外面縦ハケ。	良好)3mm以下の砂粒を含む。	良好	内-明黄褐色～橙色 外-橙色	外面黒斑、 黒色付着物。	00086
083	SU20	弥生 土器	甕		10.4+ α		如意状口縁片、口唇部下端に刻目、口縁部下に沈線を巡らす。	口縁部内面横ハケ、胴部内面風化進むがナデか。外面縦、斜方向ハケ。	良好)3mm以下の砂粒を多く含む。	良好	内-明赤褐色 外-橙色	外面黒色 付着物あり。	00087
084	SU20	弥生 土器	甕		9.3+ α	10.1	底部のみ完存、平底。	底部内面ヘラケズリ及びナデ、外面縦ハケ。	良好)1mm程度の砂粒を含む。	良	内-橙～明赤褐色 外-明赤褐～黒色	底部外面 に黒斑あり。	00081
085	SU20	弥生 土器	壺		6.5+ α		口縁部片、口唇部上下端に刻目を施す。口縁部下に明瞭な段を有す。	口縁部内面横ハケ、外面縦ハケ及び段付近に指押え。	良好)1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	内外-いぼい褐色		00083
086	SU20	弥生 土器	壺		5.2+ α		口縁部片、口唇部下端に刻目を施し、口縁部下に沈線を巡らす。	内面横ナデ、外面縦ハケ後横ナデ。	良好)1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	内-黄橙色 外-橙色		00082
087	SU20	弥生 土器	蓋		11.1+ α		裾部を欠く。フミ部分に焼成前の穿孔を有す。	内面上半横ナデ、下半横ハケ、外面縦ハケ後ナデ。	良好)3mm以下の白色砂粒を多く含む。	良好	内外-橙～いぼい黄褐色		00084
088	SU21	弥生 土器	甕		9.5+ α	(9.6)	底部約1/2残、平底。	内面風化のため調整不明、外面わずかに縦ハケ残る。	良好)2mm以下の砂粒を多く含む。	やや良	内外-黄褐色		00092
089	SU21	弥生 土器	甕		4.9+ α	8.4	底部約3/4残、平底。	全面風化のため調整不明。	良好)1mm以下の砂粒を少量含む。	良	内外-橙色		00090
090	SU21	弥生 土器	甕		7.3+ α	(10.1)	底部のみ完存、平底。	内面ナデ、外面風化のため調整不明。	良好)2mm以下の砂粒を少量含む。	良	内-明黄褐色～いぼい黄褐色 外-明赤褐色		00089
091	SU21	弥生 土器	壺		21.6+ α	(7.6)	胴～底部約1/3残。	内面風化のため調整不明、外面横方向ミガキ。	良好)3～5mmの砂粒を多く含む。	良	内-橙色 外-橙～明赤褐色		00088
092	SU21	弥生 土器	甕		5.3+ α	10.7	底部は完存、平底。	全面ナデ。	良好)1mm程度の砂粒を多く含む。	良好	内外-赤褐色		00093
093	SU21	弥生 土器	(甕)		4.8+ α	6.6	底部は完存、高台状の上げ底。	内面ナデ、外面風化のため調整不明。	良好)1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	内外-明黄褐色		00091

表5 光岡長尾遺跡1次 出土土器観察表5

単位:cm、() :復元

遺物 報告 番号	遺構 番号	種類	器種	口径	器高	底径	形態特徴	手法特徴	胎土	焼成	色調	備考	遺物 登録 番号
094	SU22	弥生 土器	甕	(23.6)	18.9+ α		口縁～胴部約1/4残、如意状で口唇部 下端に刻目を施す。	口縁部内面横ハケ、胴部内面ナ デ、外面ハケ、口縁部下指押え。	やや粗)3mm程度の砂 粒を多く含む。	良	内-明赤褐色～黒色 外-橙色		00100
095	SU22	弥生 土器	甕		15.3+ α		如意状口縁～胴部片。	全面風化のため調整不明。	良)2mm以下の砂粒を 少量含む。	良	内外-橙色		00102
096	SU22	弥生 土器	甕		4.6+ α	7.4	底部のみ完存、わずかに上げ底。	内面風化のため調整不明、外面 縦ハケ残る。	やや粗)3mm以下の砂 粒を多く含む。	良	内-ぶい黄褐色 外-明赤褐色		00099
097	SU22	弥生 土器	甕		11.3+ α	8.45	胴部下半～底部完存、平底。	内面ナデ、外面縦ハケ残る。	良)3mm以下の砂粒を 多く含む。	良	内-橙～明赤褐色 外-橙～明褐色	2次焼成、内面 黒色付着物。	00096
098	SU22	弥生 土器	甕		7.6+ α	(10.0)	底部約3/4残、平底。	内外面風化のため調整不明。	やや粗)3mm以下の白 色砂粒を多く含む。	良	内-明褐色 外-橙色		00095
099	SU22	弥生 土器	(小壺)		4.4+ α	5.0	底部のみ完存、平底。	内面不定方向ナデ、外面風化の ため調整不明。	良)2mm以下の砂粒を 含む。	良	内-黒色 外-明赤褐色、底部-黒色		00097
100	SU22	弥生 土器	壺		2.2+ α	6.0	底部のみ完存、平底。	全面風化のため調整不明。	良好)2～4mmの砂粒 をわずかに含む。	良好	内-ぶい黄褐色 外-明赤褐色		00098
101	SU22	弥生 土器	壺		6.3+ α	4.7	底部完存、平底。	内外面ナデ。	良)4mm以下の砂粒を 含む。	良	内外-ぶい黄褐色		00103
102	SU22	弥生 土器	壺		17.9+ α	9.7	胴部以下(ほぼ)完存、わずかに上げ底。	内外面風化のため調整不明。	やや粗)5mm以下の砂 粒を多く含む。	やや不良	内外-明赤褐色		00101
103	SU22	弥生 土器	甕	直径 (32.0)	14.4		裾部1/2欠く、ツマミ部上面凹む。	内面風化進むが横ハケ残、外面 上半ナデ、下半縦ハケ。	良好)1mm程度の砂 粒を含む。	良好	内-黄灰色 外-赤褐色		00094
104	SU23	弥生 土器	甕	(26.3)	27.8	8.2	1/2強残、如意状口縁、底部ほぼ完形で 平底。	内面風化のため調整不明、外面 わずかに縦ハケ残る。	良)3mm以下の砂粒を 多く含む。	やや良	内外-褐色	外面黒斑 あり。	00106
105	SU23	弥生 土器	甕		10.0+ α		如意状口縁部片。	口縁部内面横ハケ、胴部内面ナ デ、外面縦ハケわずかに残る。	やや粗)3mm以下の砂 粒を多く含む。	良好	内外-ぶい黄褐色		00105
106	SU23	弥生 土器	甕		23.8+ α		口縁部、底部を欠く。	内面丁寧ナデ、外面縦ハケ。	やや粗)5mm以下の砂 粒を多く含む。	良好	内外-ぶい褐色	外面黒斑 あり。	00104
107	SU24	弥生 土器	甕		11.1+ α	7.3	底部のみ完存、平底。	内面ナデ、外面縦ハケ及び横ナデ。	良)2～5mmの砂粒を 含む。	良好	内-明褐色 外-赤褐～黄褐色		00109
108	SU24	弥生 土器	甕		10.9+ α	6.8	底部のみ完存、平底。	内面ナデ、外面縦ハケ。	良好)3mm以下の砂 粒をわずかに含む。	良好	内-明赤褐色 外-黄褐～赤褐色	外面黒斑 あり。	00108
109	SU24	弥生 土器	壺	12.5	23.8	6.5	胴部1/3を欠く。胴部は丸みが強く、口縁 部は緩やかに外反する。	内面ナデ、外面縦ハケ後ミガキ。	やや粗)3～7mmの砂 粒を多く含む。	やや不良	内外-黄褐色		00107
110	SU24	弥生 土器	壺	(14.2)	5.9+ α		口縁部片、口縁部下に焼成前の穿孔2 穴を有す。	内面横ハケ、外面縦ハケ。	良好)1mm以下の砂 粒をわずかに含む。	良好	内外-橙色		00110
111	SD1	弥生 土器	壺		4.6+ α	6.6	底部のみ完存、平底。	内面風化のため調整不明、外面 ナデ。	良好)1mm程度の砂 粒をわずかに含む。	良好	内-褐色 外-黒～褐色		00113
112	SD1	弥生 土器	甕		6.5+ α		底部片。	内外面風化のため調整不明。	良)3mm以下の砂粒を 多く含む。	良好	内-褐色 外-赤褐色		00112
113	SC2	土器	手捏ね 土器	(8.0)	5.1	3.6	口縁の一部欠く。平底の碗形。	内面指押え、外面ナデ。	精良)3mm以下の砂 粒をわずかに含む。	やや不良	内外-褐色	外面黒斑 あり。	00114
114	S03周溝	須恵器	坏身	12.5	5.7	受部径 15.5	ほぼ完形。受部は斜め上に引き出し、口 縁部は内傾して立ち上がり、口唇部内 面に凹みをつくる。	底部内面不定方向ナデ、他は横 ナデ、底部1/2回転ヘラケズリ。	良好)1mm内外の白 色砂粒をわずかに含む。	良好	内外-灰色	口クロ右回 り。	00123
115	S03周溝	須恵器	短頸甕	(8.0)	6.9	胴部 最大 12.5	口縁～胴部にかけて一部欠く。胴部の 張りが強く、口縁部は短く内傾して立ち 上がり、底部を丸く収める。	口縁部及び内面横ナデ、胴部外 面カキ目、底部外面回転ヘラケ ズリ。	良好)1mm以下の砂 粒をわずかに含む。	良好	内外-暗灰色	胴部径9.0 cm、口クロ 右回り。	00122
116	SK17	弥生 土器	甕		7.6+ α	(8.2)	底部1/2残、平底、壺の可能性あり。	内面ミガキ状の板ナデ、外面風化 進むがナデ仕上げ、底端部指押え。	良)3mm以下の砂粒を 含む。	良	内-明褐～褐色 外-明褐色		00116

表5 光岡長尾遺跡1次 出土土器観察表6

単位:cm,():復元

遺物 報告 番号	遺構 番号	種類	器種	口径	器高	底径	形態特徴	手法特徴	胎土	焼成	色調	備考	遺物 登録 番号
117	SK17	弥生 土器	甕		7.3+ α	(8.8)	底部1/3残。	全面風化のため調整不明。	良好)3mm以下の砂粒を少量含む。	良	内-棕色 外-明赤褐色		00118
118	SK17	弥生 土器	甕		5.7+ α	6.8	底部のみ完存、平底。	全面風化のため調整不明。	良好)3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良	内外-橙～明赤褐色		00115
119	SK17	弥生 土器	甕		6.9+ α	7.2	底部のみ完存、平底。	内面風化のため調整不明、外面縦ハケ。	良好)3mm以下の砂粒を含む。	良	内外-棕色		00117
120	SK17	弥生 土器	小壺		2.9+ α	3.6	底部のみ完存、わずかに上げ底。	全面風化進むが、ナデか。	良好・精良)砂粒をほとんど含まない。	良	内-明黄褐色 外-褐灰色		00121
121	SK17	弥生 土器	小壺		2.6+ α	3.3	底部のみ完存、平底。	内面指押え、外面ナデ。	良好・精良)2mm以下の砂粒を少量含む。	良	内-明黄褐色～灰黄褐色 外-濃い黄～灰黄褐色		00120
122	SK17	弥生 土器	小壺		2.3+ α	4.8	底部のみ完存、平底。	内面ナデ、外面ナデ、一部ケズリ。	精良)1mm程度の白色砂粒をわずかに含む。	良	内外-明赤褐色		00119

表6 光岡長尾遺跡1次 出土石器・鉄器・土製品観察表

():復元

遺物 報告 番号	出土遺構番号	種類	器種	残存長 (cm)	残存幅 (cm)	残存厚 (cm)	重 (g)	形態特徴	石材	色調	備考	遺物 登録 番号
123	SU2	石器	砥石	7.3	5.9	2.4	81.6	3面使用痕残存、他は破損で不明。	砂岩	灰色	仕上げ砥石。	00133
124	SU3	石器	石包丁	6.1	孔径0.6	0.7	33.0	穿孔部付近のみ残存。	(凝灰岩)	暗紫灰色		00134
125	SU3	石器	磨製石斧	6.8	7.4	4.5	340	基部欠損。	安山岩	灰色		00135
126	SU3-4	石器	砥石	6.1	2.7	1.0	22.5	2面使用痕残存、他は破損で不明。	砂岩	褐灰色		00136
127	SU6	石器	砥石	11.6	9.0	2.4	335	表裏2面使用、1側面は自然面、敲打痕あり。	砂岩	灰褐色	中～仕上げ砥石。	00124
128	SU6	土製品	紡錘車	直径2.9	孔径0.5	0.8	6.4			浅黄色	紡錘車としては小形か。	00137
129	SU6	土製品	紡錘車	直径2.9	孔径0.5	0.7	6.8			浅黄色	紡錘車としては小形か。	00138
130	SU7	石器	砥石	15.5	12.1	5.4	1,745	ほぼ完形、表裏2面使用、側面は自然面。	砂岩	灰色	中～仕上げ砥石。	00125
131	SU7	石器	砥石	11.6	1.65	1.45	51.0	方柱状を呈し、ほぼ完形、全面研磨痕残存。	砂岩	灰～灰黄褐色	仕上げ砥石。	00139
132	SU8	石器	紡錘車	直径6.4		0.7	52.1	穿孔放棄の未製品であろう。	頁岩	灰白色		00140
133	SU20	石器	磨製石斧	8.8	4.4	2.0	161.5	基部欠損。	蛇紋岩	暗青灰色		00142
134	SU23	石器	砥石	7.1	5.0	2.6	80.0	ほぼ完形。	砂岩	浅黄色	仕上げ砥石。	00126
135	SD1	石器	石包丁	4.7	10.3	0.6	34.3		(頁岩)	灰色		00143
136	SK17	石器	凹石	直径13.2		5.7	1,460	完形、中央部に敲打による凹みあり。	(凝灰岩)	灰白色		00127
137	SK17	石器	石包丁	5.8	5.6	0.6	20		(頁岩)	灰色		00141
138	SO3周溝	石器	磨製石斧	10.5	7.1	5.2	682	基部のみ残存。(太型給刃石斧)	玄武岩	灰色		00128
139	SO3石室内	鉄器	鉄鏃	12.9				完形品、長頸鏃、鏃身部断面は片丸造。				00148
140	SO3石室内	鉄器	鉄鏃	7.6				長頸鏃、鏃身部断面は片丸造。				00147
141	SO3石室内	鉄器	鉄鏃	6.5				長頸鏃、鏃身部断面は片丸造。				00146
142	SO3石室内	鉄器	鉄鏃	4.2				長頸鏃、鏃身部断面は片丸造。				00144
143	SO3石室内	鉄器	鉄鏃	5.9				基部片。				00145
144	表探	石器	磨製石剣	4.0	5.1	1.1	23.9	基部付近の破片。鏃は明瞭で基部まで通っている。	頁岩	灰白色		00130
145	表探	石器	磨製石剣	5.8	2.9	0.7	11.8	切先部付近の破片。風化が進んでいるが鏃が残る。	頁岩	灰黄色		00131
146	表探	石器	磨製石斧	7.75	6.6	3.7	316	基部のみ残存。(太型給刃石斧)	玄武岩	灰色		00129
147	表探	石器	打製石鏃	1.9	1.7	0.5	1.0	横刃の寸詰まり剥片を素材として使用。	(安山岩)	灰色		00132

図 版

図版1



光岡長尾遺跡周辺の航空写真(昭和53年6月撮影)



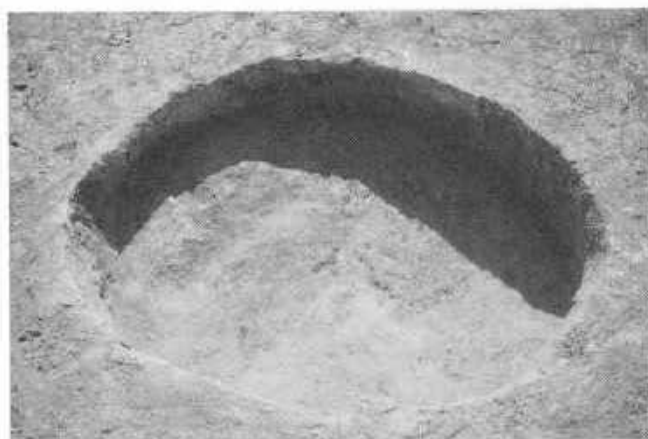
(1) 光岡長尾遺跡2次調査時の全景(北から・参考写真)



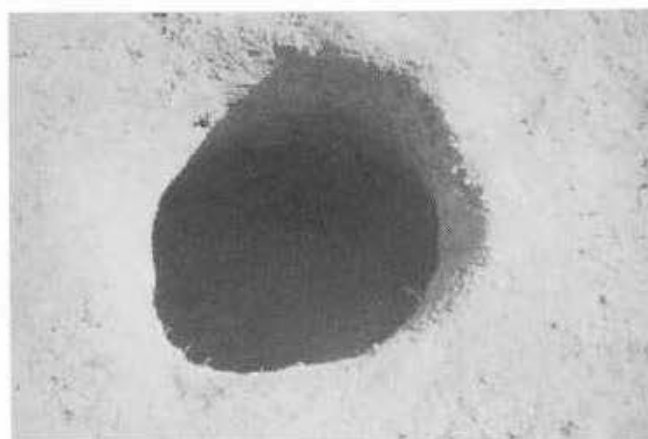
(2) SU1



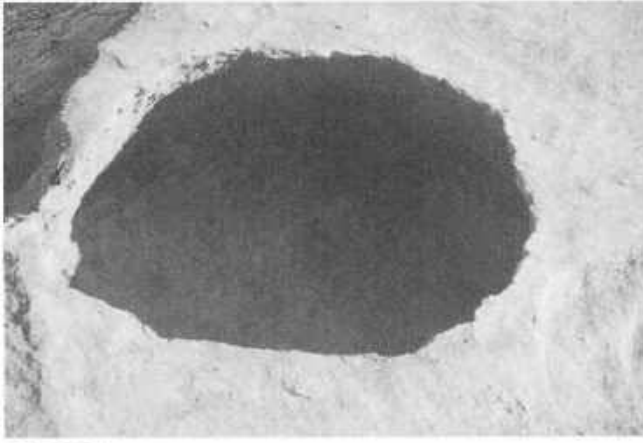
(3) SU2



(4) SU7



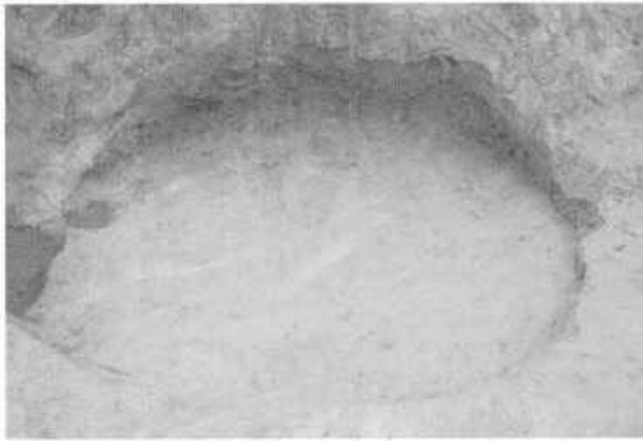
(5) SU8



(1) SU12



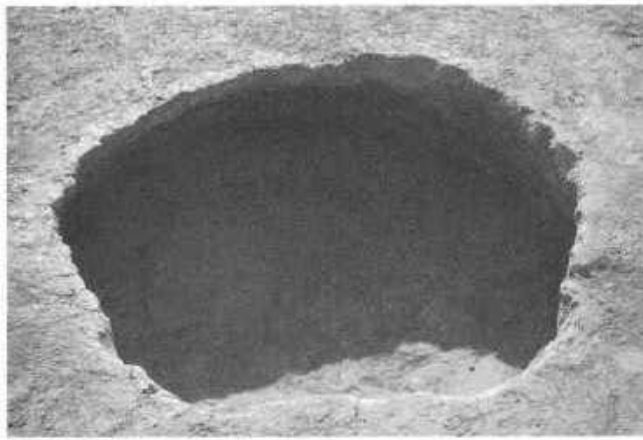
(2) SU13



(3) SU15



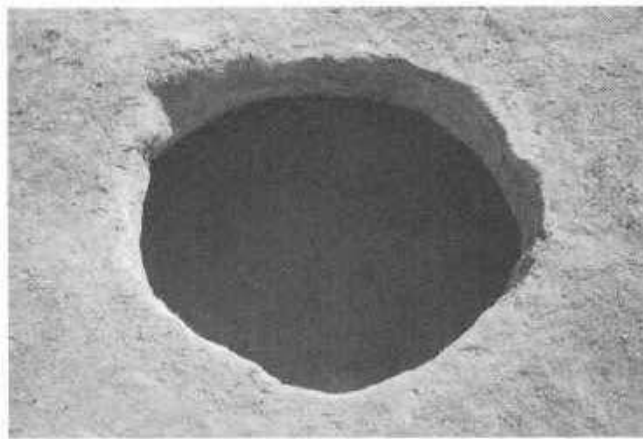
(4) SU10



(5) SU18



(6) SU19



(7) SU20

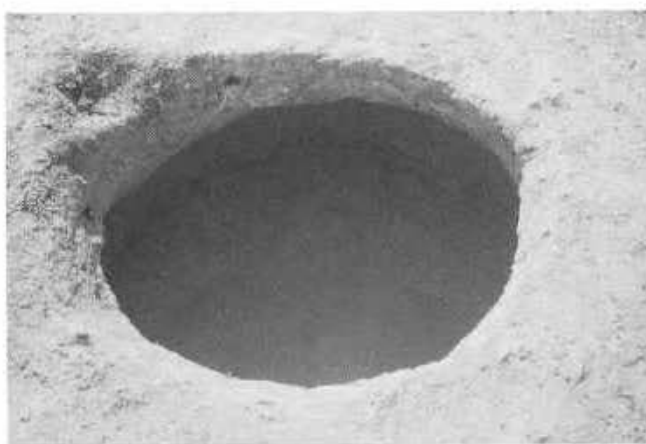


(8) SU21

図版4



(1) SU21遺物出土状況



(2) SU22



(3) SU22遺物出土状況



(4) SD1



(5) SC2



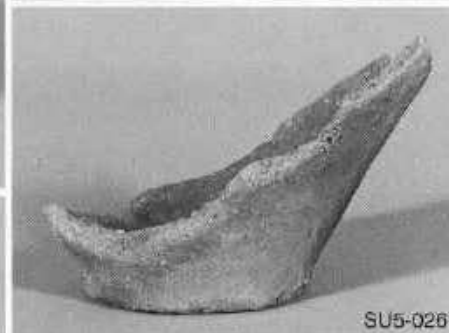
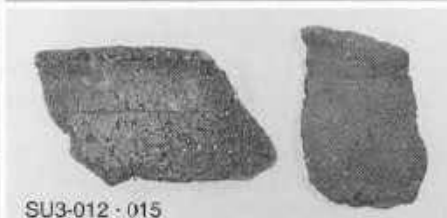
(6) SO1



(7) SO3主体部全景



(8) SO3





SU6-036



SU7-048・044



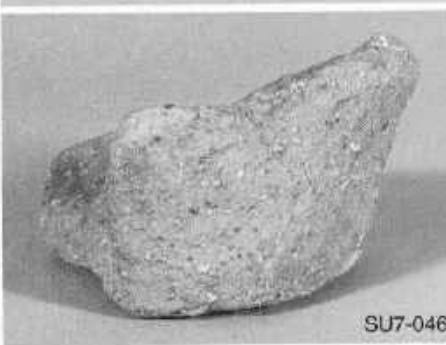
SU11-056



SU6-039



SU7-045



SU7-046



SU12-057



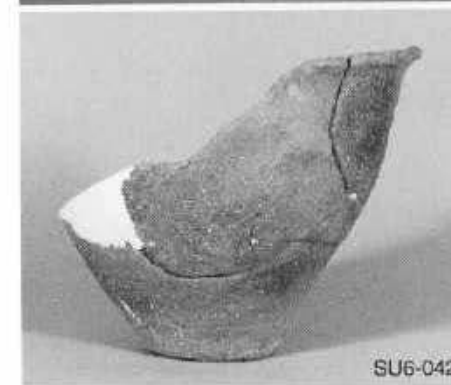
SU6-040



SU7-049



SU12-059



SU6-042



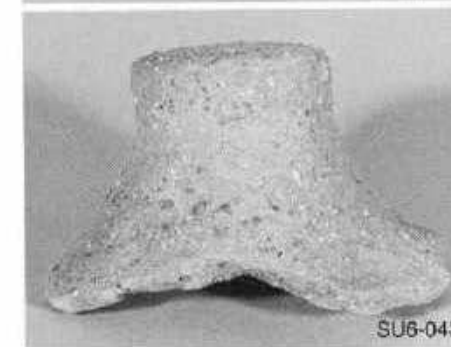
SU8-053・050



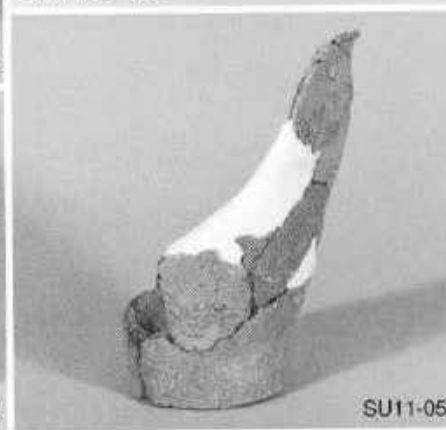
SU14-060



SU8-062・051



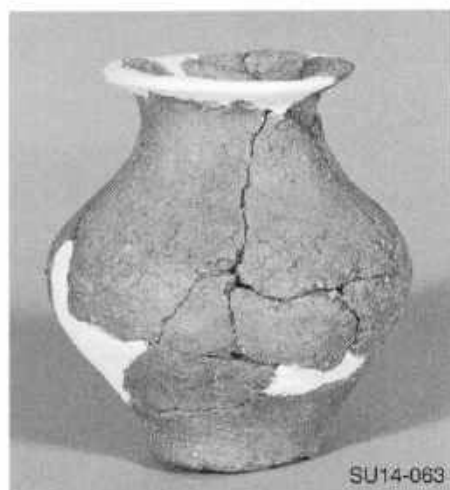
SU6-043



SU11-054



SU14-061



SU14-063



SU20-076



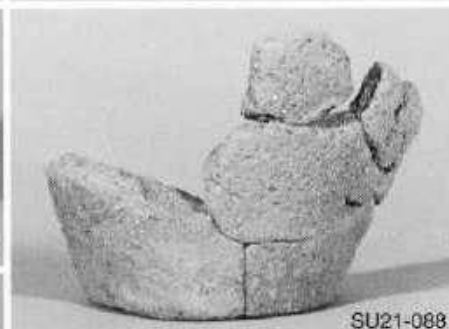
SU20-087



SU14-064



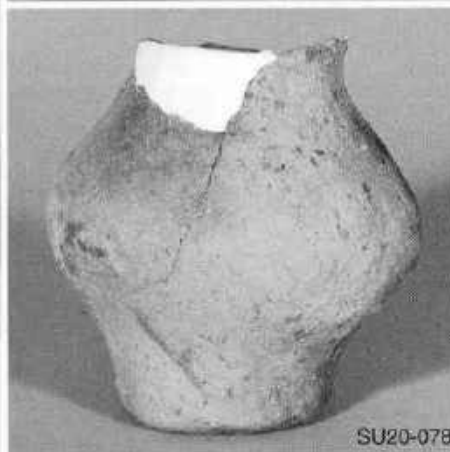
SU20-077



SU21-088



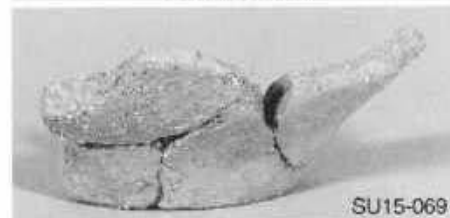
SU15-066 · 065



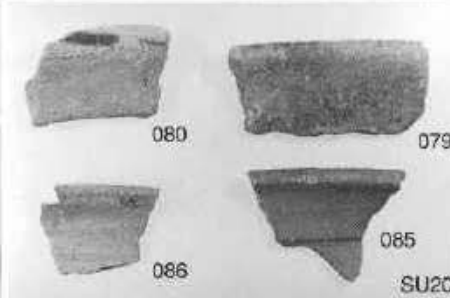
SU20-078



SU21-089



SU15-069



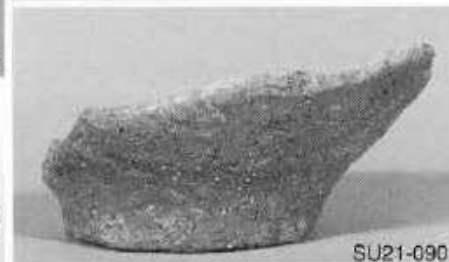
080

079

086

085

SU20



SU21-090



SU19-073



SU20-081



SU22-094



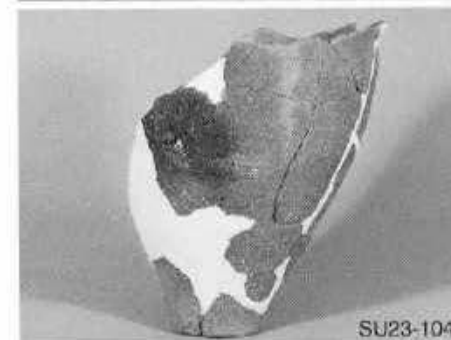
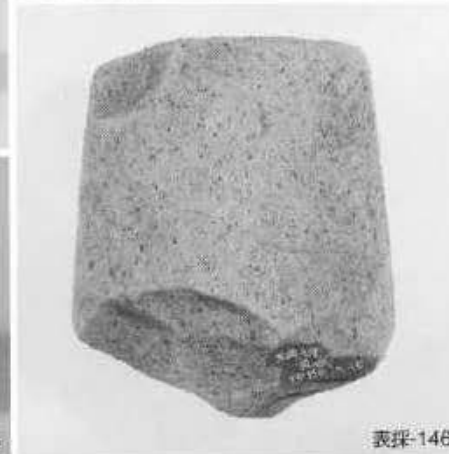
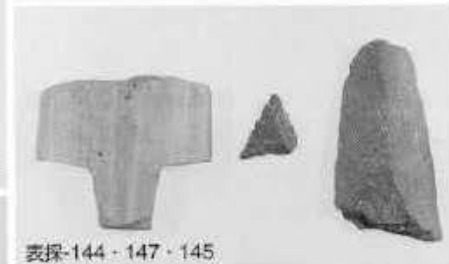
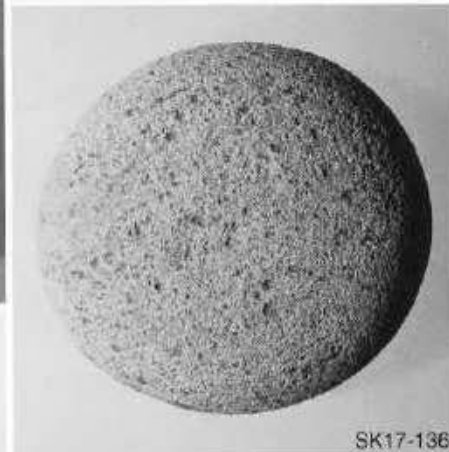
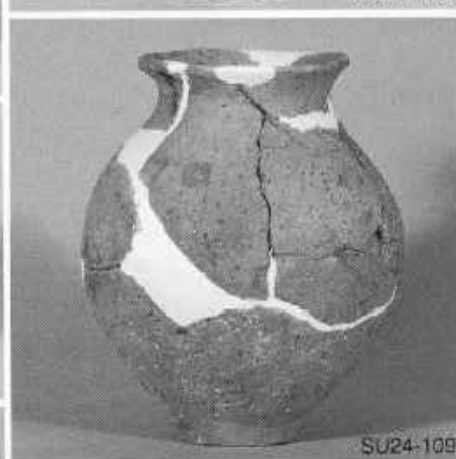
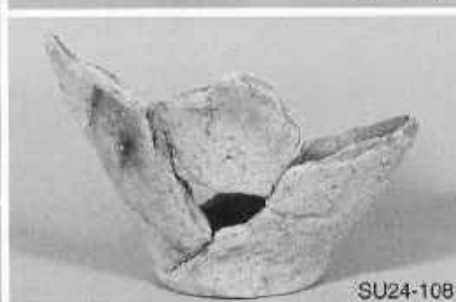
SU19-075



SU20-084



SU22-096



報告書抄録

フリガナ	ミツオカナガオⅠ							
書名	光岡長尾Ⅰ							
副書名	福岡県宗像市光岡所在遺跡の発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	宗像市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第57集							
編著者名	白木英敏							
編集機関	宗像市教育委員会							
所在地	〒811-3492 福岡県宗像市東郷一丁目1番1号 TEL (0940) 36-1540							
発行年月日	西暦2004年3月25日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ′ "	東経 ° ′ "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ミツオカナガオⅠ 光岡長尾遺跡 第1次調査	ミツオカナガオⅠ 宗像市光岡 69番地1ほか	40220	330328	33° 47′ 02″	130° 33′ 50″	1980.12.15 ～ 1981.1.10	約1,600㎡	は場整備
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
光岡長尾遺跡 第1次調査	墳墓・集落	弥生時代前期後半 ～中期初頭、 古墳時代後期		古墳・竪穴住居 貯蔵穴・溝状遺構		弥生土器 須恵器 石器・鉄器		

光岡長尾Ⅰ

宗像市文化財調査報告書

第57集

平成16年3月25日

発行 宗像市教育委員会

宗像市東郷一丁目1番1号

印刷 (株)マツモト

北九州市門司区社ノ木一丁目2番1号